

神戸女学院における体育の歴史
～大正時代～

谷 祝 子
井 上 紀 子

Summary

History of Gymnastics in Kobe College ~Taisho Era~

TANI Noriko
INOUE Noriko

This time, we summarized the history of gymnastics in Kobe College in Taisho era by quoting the reference from alumna bulletine "Megumi".

Kobe College in Taisho era was governed by the principal C.B. DeForest, she performed 50 years Memorial ceremony at Taisyo 5.

We can understand Taisho eara as development eara, because of Kobe College Spiritual exaltation by the principal, proffesors, stuffs and students.

In Meiji era, missionaries taught the gymnastics to students by themselves, but in Taisho era Japanies gymnastis teachers had done gradually.

We can be informed the character of teachers and spiritual exaltation to Kobe College by revieus ob our alumna bulletine "Megumi".

We had only one gymnasium in school at Meiji eara, but one more gymnasium had constructed at Taisho era (Taisho 8), so recognition for gymnastics had been improved. So, many kinds of sports, such as tennis ball, basket ball, Japanese archery and many kinds of dance and so on, had been availabled.

はじめに

神戸女学院の大正期はデフォレスト院長の時代であったといえる。女史は明治38年1月、女学院の一教師として赴任し、聖書、音楽、英語等を教授した。明治44年12月より大正2年9月まで休養のため米国に渡ったが、その他はずっと女学院にあった。明治25年より院長を勤められたミス・ソールの後継者として、大正4年に院長の職に就いた。

ミス・ソールの時代にじりじりと基礎を固めてきた女学院は、ミス・デフォレストになって発展の時代に入って行った。

大正5年に普通部が高等女学部と改称され、大正7年(1918)の改正「大学令」の公布により専門部が大学部の名称を得たのは大正8年2月であった(資料1、2、3、4)。女子にも男子と同じような高等教育が必要だといわれるなか、学校での在学年数が伸びると女性の婚期を遅らせ、日本民族の繁栄にも害を及ぼすとか女性の身体(母性)にも害があるといった議論が大正期になっても知識人によって展開された。

このような時代の女学院生の風俗は、高いひさし髪をリボンで飾り、海老茶のはかまを胸高にはき、純白の足袋をのぞかせたのが女学生のあで姿であった(神戸女学院百年史総説、P. 146.)。はかまの着用を奨励したのは明治30年のことで、歩行や運動に便利であることを強調してのことであった。大正期に靴を履くことは流行したがまだ洋服を着る生徒はいたって少なかったようである。(写真P. 185)

女学院生の様子を伝える記事が同窓会誌『めぐみ』に長坂牧師によって書かれているので引用すると、「神戸女学院の卒業生は見識があって且つ自己の意見を他人に発表することの出来る女である。この学校の生徒は餘所の女と顔つきが違う、目の輝き方が違う。活動の気が漲っていて打てば鳴る、たたけば響く。私が前に立って話をしている、それに応ずるものがあったてよく婦人の集会で経験する如く羅漢さんを前に並べて説教するような心地はしない。一體婦人というものは學問をしてもすらすらと水の流れるように読むことが好きで深く掘ってその意味を取るということを嫌がる風があるが女学院の生徒は上手に質問の矢を放って先生を困らせると言うことで、誠に結構なことである。

この頃世間では婦人解放の声がやかましいが女学院では昔からこの主義を採って生徒には自由を与えてある。以上考え来れば女学院の生徒はいかにもおてんば娘のように見えるが実際はそうでない。それはなぜと言うに宗教なるものが存するからである。もし女学院の生徒にして神を知らざれば即ちハイカラのおてんば女学生である。この学校に入學して基督教を握らないならば却って害があると思う。」

『めぐみ』第55号、P. 20.

この研究は「神戸女学院における体育の歴史 ～明治時代～」(2002年1月発行第49巻第2号に掲載)に続く第2報である。大正期の体育に関する記事を主に同窓会誌『めぐみ』より資料収集を行ない、年表形式にまとめ、考察を行なった。大正期になると記事や写真などが増え、私たちの先人である体育担当者も明確になり、写真もあり親近感をもつことができた。

1. 神戸女学院のスピリット

大正期は15年の短い期間であるが、神戸女学院創立40周年と50周年を迎えるという巡り合わせとなり祝会が盛大に挙行された。

40周年の祝会が行なわれた時、様々なパーゼントが出演されたがその一つに「神戸女学院のスピリット」というのがあった。それは次のようなものである。「一人の若い娘は自分で作り上げた花輪を持って母の所に来ると、「この花輪を何にさし上げたらよいのでせう」と云って、善悪二つの使いが現れて色々なものの精を見せる。第一に現れたのは「知慧」、次には「音楽」と「美」と「グレース」が現れる。次には「富」と「快樂」はあまりにも大げさで立派過ぎるのでこの少女の心を捕らえない。しかし「テニス」「バスケット」「体操」が現れた時には、彼女の心は大分奪われたが、それでもないと母が云う。そして次に「家庭」と「愛國」の精が現れた時には、花輪を捧げかけるのだが少女は愛と苦と悲と犠牲と淋しさを伴った「奉仕」こそが自分の求めてよいものであることを教えられるのである。

華麗な、ぱっと人目を引くようなのが我が神戸女学院の學風でない。西洋人の教師達が多いからと云っていやにハイカッタ事もしない。何處までも基督教の奉仕の精神に培れて、健實に、高潔に、女学院は五十年間進んできた。それは余りにも陰気と云う人があるかも知れない。しかし我々の求めるのはその下に光り輝く白い衣であった。悲しみも苦しみも淋しさも物とは思はないで、愛と犠牲に生きやうと努めた。」というのである。 『創立五十年史』 PP. 71-72.

「風俗部の所感」と題して杉 みさをさんが次のように書いている（抜粋）

「私どもは身をまとふに學校の生徒としてふさはしい服装をたもたなければなりません、私はその標準として質素といふ二字を各々もつと深く心にとめてほしう御座います、私は今ここに憚らず断言致しませう、女学院スピリットといふものは決して決して華やかな着物を着て肩で風を切って道を歩くものではない。私共はもっと心に輝きある着物を着なければなりません、そして眞に清い麗しい校風を造らなければなりません、」 『めぐみ』第64号. P. 13.

神戸女学院五十年祝会に際して女学院の沿革史を書こうということになった。卒業生の小西すま夫人が女学院の大切な過去を正確に、細かい事項まで調べ書かれた。この歴史の印刷費は同窓会より出費され『神戸女学院の歴史』（『創立五十年史』のことではないだろうか）ができた。その中の一説に「新しい奇なものをも恐れず何者であるか研究してみやうとする大膽な機敏な人もありました。まだ生まれたてのこの学校は海岸近い町の中心地よりずっと離れた其の時はまだ梅林と田畑のみであった所に独り立つて居る小さなものでありましたが其の精神にいたっては先覚者としての信念と熱心とがありました。」とデフォレスト院長は述べているのである。

「時代が変われば、一番大切なのは「生きていく姿勢」である」と「女学院精神」として書かれた一説を『神戸女学院100年史 総説』にも見た。このように創立以来受け継がれ、積み上げられ出来上がってきた神戸女学院スピリットが、生きているという力強さを感じ、今後の示唆に満ちている。

2. 神戸女学院における体育担当教師

明治13年第2代校長クラークソン時代に初めて学制が示され「体操」科目の始まりをみた。明治34年に初めて大熊蓮子（後に羽太氏と結婚）が新任体育教師として名前が出てから、明治40年には中島キクが、同43年から大正期にまたがり体操を指導した山崎なか江は大正2年6月初め腹膜炎にて欠勤し、翌3年5月に辞職、大正10年11月に永眠（梅花女子専門学校北野時代の名簿に体操担当の記録がある）。

後任として森亟子が着任する。「大正三年の四月には體操科に森教師来任。森教師の體操に熱心なると其の原理の徹底及び技術の優秀なることは世に少ないと思ひます実によりき教師を得たと思ひます、(略) また生徒の規律的動作等の変化は実に同教師の力であります、信仰の厚き人であります。」教頭木村徳蔵は「母校のおとずれ」の中に森教師のことをこう述べている(64号、P. 19.)。しかし、大正15年10月21日に箕面に生徒を引率して遠足中崖から落ちる事故に遭遇し、翌日亡くなる。(関連記事の資料15)

また、大正10年に初めて男性の体操教師として岩佐留吉の名前が出てくる。「岩佐教師もまた女學部の體操を教え、院内週報の係りもされている。」先生方の近況の中で「岩佐先生は温厚篤実御授業のほかに面倒な事務を引き受けてなさいます。之はまた體操の先生とは思へぬほどです。」というような記事などから先生の人柄、仕事ぶりが伺える。

もう一人、武本文代は体操科研究の目的のために大正9年米国ミシガンのバトルクリークにあるケログ体育学校に留学のために渡航する。同13年に帰国し教鞭をとる。

「ミス武本が各々家政學教授以外に又體操、ダンスの教授以外に健康に対する知識と注意とを養い一般に広めたる努力してられる。」(資料12)と素晴らしい働きぶりや努力する姿を伝えている。

大正13年『めぐみ』に同窓生消息として「大学部第四十一回卒業生花岡俊子姉、甲府の英和女學校で體操の先生、其の傍、聖書、英訳、通訳、校長助役、ありとあらゆる役を引受けて一分の余裕のない御忙がしさ。」(第4号、P. 54.)との記事がある。母校ではなく他校で教鞭をとっておられるがこの短い文からも優秀な働き振りが伝わる。

このように大正期の体操の先生は、どの先生もクリスチャンであったのだろうか。信仰厚き人、余りにも事務に堪能なために体操の先生でないみたいなど、礼拝のオルガンのボランティアをされたり、学院のための働きをしておられる姿が随所に垣間見ることができる。

3. 大正期の体育施設

明治41年に念願の雨天体操場が一棟建築されてから、大正5年に創立40周年を記念して雨天体操場の増築が決定され、大正8年9月11日に数年来の希望であった雨天体操場の拡張工事が夏休み中に終り奉堂式が挙行された。(写真P. 157)

体育施設としてはテニスコート、バスケットボールコートが用意され、梅花女子と神戸女学院の交流試合が盛んに行われていた。

「體操館に教員の控室及び生徒の仕度室を設けました。學校の洋式便所のタンクは(略)病

室の設備を改良して病者は是迄畳の上に臥しせしめられましたが今度は寝台を用いることにした。負傷者又は病者のため簡単なる高等女學舞踊の病室を設けました。(略)

水道給水栓をテニスコートの傍に設けました。大正九年に明石大蔵谷を購入、大學部敷地には井戸を一箇所掘り物置を一箇所設け又キャンプ用としてテント二張、寝台四個椅子机及料理用品を設備しました、之等の設備は生徒をして野外生活の趣味を得せしめ又同學部が移転するまでに其新敷地と親しますためであります。』

雨天体操場の写真から分かるように窓にガラスがないのである。当時、ガラスは貴重品であり、高価なものであったのか数年来待ち望んだ體育館にガラス戸が入っていないのである。それを「或親しき友よりの賜物は雨天體操場の両側のガラス戸を入れるに用いたり。塵埃、風雨を防ぐためなり。」 『めぐみ』五十年報 附記：建物其他の設備について P. 48.

今までになかった色々な用品・設備等の充実がみられる。

4. 大正期の健康教育 一深呼吸一

「健全なる身體と明晰なる頭腦とを養い、後日社会に活躍し世の為神の為にと抜きんでて盡す人の多く出でんことを期す」忙しい学科の暇々にテニスコートやバスケットコートで盛んに練習に励み、学外では登山や遠足なども行われている。

全学生が礼拝前に、毎朝授業の前に、寄宿生も深呼吸を行っているという記事が数ヶ所に亘り出てくる。健康教育の一旦であったと考えられる。

- ・「月曜日毎朝始業前十分間深呼吸を理学館前球庭にてすることとなる。」(大正3年 第59号. P. 23. 28.)
- ・「毎朝生徒一同に深呼吸をさせたり。」(大正6年 第64号. P. 18.)
- ・「連朝の深呼吸 十一月森體操教師の發意により毎朝始業十分間雨天の外は一同理学館前庭球場にて深呼吸を始めたりしが良結果あり。」と深呼吸を始めたのは森教師であったことがはっきり書かれている。(第61号. P. 15. 略史四十年史)
- ・「米澤牧師は身體の為運動場にて深呼吸をなす如く講堂にても我らは深呼吸をなすべしと懇々と語られる。」(大正7年 第65号. P. 9.)
- ・「寄宿舎で夜の深呼吸の場所も元は西舎の廊下と前の道だけで結構でしたが此の頃はテニスコート全体を用いなければ間に合わなくなりました。」(大正10年 第1号. P. 30.)
- ・「大正三年十一月より毎朝礼拝前に十分間全校こぞって深呼吸をなすことに決す。」『創立五十年神戸女学院史 P. 97.』

大正15年にも「運動部は朝の気持好い深呼吸を」という記事もある。

毎日生活の中で呼吸は、余りにも空気のような存在になっているといってもよい。

「日常の常識であった丹田呼吸法などの身体技法がいつの間にか遠ざけられてしまった。もう一度大切にすべき文化として救い上げていくことが必要だ。」と齋藤孝氏(明治大学教授)は「日本人と呼吸～身体文化を取り戻し、今に生かす～¹⁾」の中で述べている。

また次のように言っている。「丹田呼吸法は、江戸時代から続く呼吸法で、いちばん盛んになったのが大正時代です。

明治以来の西洋文化に対して、いわばルネッサンスという時代が来て、伝統的なものをリニューアルしようと、いろいろな身体技法は流行した。丹田呼吸もこのときに大きく日本中に広まった。能、茶の湯をはじめとする芸道や弓道、剣道といった武道など、日本の伝統文化の中では今もしっかりと受け継がれている。

体育で深呼吸というのがあり、ハーッと深く吸ってドハーッと一度に吐く感じです。一方、丹田呼吸法は長呼吸の呼吸法で緩く長く息を吐き、フーッと消えるか消えないかという感じでずっと吐き続ける。丹田呼吸法に限らず、このような呼吸法は東洋ではメジャーな呼吸法だった。」と齋藤氏は述べる。

女学院において大正期に深呼吸に関する記事が数ヶ所に出てくるが、深呼吸とは齋藤氏のいうようなものだったのだろうか。やり方などの説明する記事などは記載されていなかった。「各自の体質に適合したる個人的體育法及び個人的衛生法、例せば冷水浴、冷水摩擦、深呼吸法等を自由を選択して、日々夜々之を實行せしめ、且つ終生體育及び衛生に対して、衰えざるの興味を養はしむ。」とあり、日本女子大学校においても同じような深呼吸法が行われていたようだ。

『日本女子大学校の過去現在及び将来』P. 69.

◎大正期の阪神間における交通の発達

大正時代はいわゆる大正デモクラシーの時代の波が押し寄せてきた。大正3年8月には第一次世界大戦が起こり、日本はイギリス、アメリカの連合軍に参加し、経済的には大好景気をもたらされたのである。大正デモクラシーの運動も起こり、普通選挙運動、婦人参政権の運動、新しい女性の解放運動時代の脚光を浴びてきた。

阪神間の交通の発達については、すでに明治中期の東海道本線全通の頃、神戸から西では私鉄・山陽鉄道の建設が進んでいた。明治38年には大阪－神戸間の私鉄・阪神電車、43年には兵庫電気軌道（現山陽電鉄）が兵庫－須磨間に開通し、同年、両私鉄をつなぐ神戸市電が春日野道－兵庫間で創業した。

大正時代になるとこれらの路線は延長され、兵庫電軌は大正6年（1917）に明石まで伸び、須磨から葺合までの市街地に市電が建設された。阪急電鉄が大阪から上筒井（現在の三宮）まで開通したのも大正9年であった。港を見ると、明治後期から始められた第一期の工事が大正11年に完了して、四本の大規模な突堤が完成した。同8年着工の第二期工事は昭和になって完了し、櫛の歯状の近代的港湾が出現する。神戸港は、大正12年の関東大震災で大打撃を受けた横浜港に変わって国指定重要港湾となり、神戸は最大の港都となった。

大正10年に阪急今津線が開通（当時は西宝線）（写真P. 161）、今津線は女学院生活と切り離せないものとなって現在に至っている。

『目で見ると神戸の100年』P. 40.

◎自治會について

神戸女學院自治會はかねてから學生の熱心な要望に應えて1907（明治40年）1月に發足をみた。“高尚なる校風を維持し、自治の精神を養い且つ愛校心を増す為には會員をして個人的に又團體的に責任を發揮せしむるにあり” —以上は最初の自治會規則に示された本會の目的で自治會の指導精神である。

自治會誕生の恩人ともいうべきは、Miss Anna H. Pettee である（写真）。1906年 Mount Holyoke College 卒業と共に女學院に赴任した彼女は若さと自身の學生生活より得た經驗を生かし、三年間の滞在中自治會の指導と育成に当たられた。第1回會長は卒業後音楽部で五年間教鞭をとられた森本ぬい姉（写真）であった。

當時の組織は會長、副會長、會計書記、各一名、及び専門部の各學年より一名と高女部五年生よりの二名からなる行政委員會及び年二回の總會、毎月一回の例會をもち、會の運営過程及びその管理は學生によって行われた。

最初は清潔部、風儀部の二つに分れ、清潔部は庭園校舍寄宿舍等を清潔にすべき責任を持ち、風儀部は一般校内風儀に関する事項を処理してゆくようになっていた。後にこれは風俗部、整理部、運動部の三つに分れ、生徒という生徒はその何れかの部に属してその責任を全うするという事になっている。つまり生徒の學校生活の源泉をなすもので、自分で自分のことをしていくという習慣を作っていくのである。二名の教師の顧問はあるが、生徒自ら立って下級生を指導し、互いに助け合うことに努めた。

行事には教師、生徒の歓迎會、送別會、愛校週の催し、運動會、感謝祭、クリスマス祝會などがあり、殊に毎年5月22日の創立者記念日に催されるバザーにおける生徒の働きはめざましかった。日々の活動としては生徒の服装、作法等風儀に関する事項、校庭、校舍、寄宿舍の清掃、校内清掃の見廻り、火災待避訓練は自治會の手で行われた。

女學院自治會の特色はすべての活動が生徒の愛校心、各自の責任感、向上心から自發的に行われたということである。この活動に従事するうちに、生徒は作業法を習得し、協同生活における個人及びグループの責任について学び、社會に出て行く準備をしたのである。

昭和16年“報國隊”に編成されるに至ったが、昭和20年8月15日に終戦を迎えるや、10月には早や自治會が再編成され専門部から會長が選ばれ、校風、運動、會計、宗教、文化各部が設置された。昭和23年に學制の機構改革と共に中學部、高等學部、大學が各自別個の自治會を有することとなったが、學院の主要行事には各部自治會が協力していた。（當時大學自治會長大學三年 福光かほる 記）『神戸女學院 その歴史を描く 明治八年～昭和二十五年』P. 29



Anna H. Pettee, 1906-9
Framer of Student
Government Constitution
アナ・エイチ・ペティ
在職・明治39-42
始めて自治會の規程を作つた教師



Nui Morimoto, Music
Teacher, 1909-14
First President, Student
Government Association
森本ぬい。在職・明治42-
大正3。音楽
創設當初の自治會長

二十回代の卒業生は自然山本通りの母校が思い出されます。まず記憶に浮かぶのは門内の松林です。山本通りの学校は山の麓、というより、山腹に立った感じで、門からずっと登りになっていました。多分この辺が開けだした創立当時は山の一部ではなかったかと思われます。

門を入ると道が左右に分かれて、正面に丘のように松やその他の樹木がうっそうと茂っていました。

左の道を行くと、音楽館、旧講堂、理科学館、寄宿舎へと徐々に高くなり、又途中で右に石庭の段が南舎へとつづいていました。その後まもなくこの林は、下の一部だけ残して取り除かれ、その跡に煉瓦造りのどっしりとした新講堂が建ちましたが、この松林の風情は忘れられないものです。入学したころ授業は、旧講堂、理科学館と音楽館の三つの建物の中でありました。

新講堂について、葆光館という和室のある校舎が右の坂を登った奥に建ち、国米先生に裁縫と作法を、鎌原先生に西洋料理を習い、いちごのジャムを作ったり、パンを焼いたり。

次に細い道をへだてて、更に高い所に教室を無くした校舎が建ち、運動場も出来てこのころからバスケットボールやテニスが盛んになりました。バスケットは当時の女学校には新しいものの、女子式ゲームで活動の範囲は今のより狭いが、グレース・ストウ先生のコーチで長袖にたすきがけ、袴をはき、長い髪を結髪に又は三つ組に下げた出で立ち、ニチボウカイヅカの時代には考えられないでしょう。

また南舎の横にはそう広くない運動場に金網がはってあり、テニスのほか当時まだ珍しいバドミントンや近頃あまり見かけないクロッケなどの静かなゲームも日差しを浴びて遊ぶのは楽しみでした。
(昭和四十八年八月二十九日東京支部だよりに掲載されている)

凡例

〈年表について〉

- ・見開き左側には神戸女学院関係を、右側には社会一般についての事項を掲載した。
- ・年表には年のほか、明らかになっている範囲で月日を記載した。
- ・枠外には脚注として特筆事項を記載した。
- ・引用記事の後ろに記載しているのは同窓会誌『めぐみ』の号数である。

〈本文の記述について〉

- ・原則として当用漢字、現代かなづかいかなづかいを用いた。しかし資料に即するものはできるだけ原文に沿って記述するように心掛けた。

〈資料について〉

- ・できる限り、原文に沿って再現したが、やむを得ず現代かなづかいにした箇所もある。
- ・「神戸女学院」の表記については、統一せず、引用部分は原文に沿って記述した。

神戸女学院

年号	院長・学長・担当者	月	日	事項
大正元 (1912)	〈ソール院長時代〉 山崎仲江 (体操) M. 4.3. ~T. 3.	5	22	学院記念日 8時半より自治会の催にて祝賀式を開く自治会長の祈りあり続きて一同院歌を歌い余興に移る。余興は葆光館の庭に体操遊戯バスケットボールなどをなして一同大満足。(第54号. P. 26.)
		9	13	御大葬のため校内運動会は見合す。(第55号. P. 21.)
		10	18	自治会役員改選 吉崎つね。(第55号. P. 24.)
大正2 (1913)	河原くに子 河合ケン M. 34.9. ~T. 3.6 (英譯、植物)	5	9	矯風会報告 講堂に於いて例会を開く 酒害・人間の生命に及ぼす酒害／身体に及ぼす酒害・智慧の鏡を曇らす酒害・家庭及び子孫を損う酒害・飲酒の濫費。(第56号. P. 15.)
		6	12	山崎先生、御病気の為例年より送れし体格検査を本日より行い始む。(第56号. PP. 2-3.)
		6		院内記事 六月初め体操教師山崎仲江、腹膜炎にて欠勤につき、同窓生河原くに子姉に依頼して監督をして頂く。(第56号. P. 2.)
		9	23	寄宿生火事消防の実習をなす。運動部長の号令の下に音楽館下の火事場に走せつけ消防したり。(第56号. P. 15.)
		10	18	午後葆光館にて運動會みたいな親睦会を開きて面白く遊びたり。(第57号. P. 18.)
		10	29	小豆島寒霞溪の紅葉を探り、高松公園の秋色を賞でんとて五年生一同河合先生に引率されて午後七時半修学旅行の途につく、寄宿生等行を盛にせんとして見送ったり。(第57号. PP. 18-19.)
		10	30	五年生を除く外生徒一同奈良に遠足、大佛様が割合に小さいとて悪口を云ふたり、春日神社の赤い鳥居の許に休みて塵に戯れたり、一日を楽しく過したり。(第57号. P. 19.)

社 会 一 般

月 日	事 項
1	学生生徒身体検査規定中、一部改正、従来身長・体重などの計測にメートル法を採用していたのを尺貫法に改める。
2	朝吹、山崎両選手マニラカーニバル（庭球）に参加、庭球外国遠征の初め
5	餘部橋梁完成により山陰線全通。
6 7	嘉納治五郎、ストックホルムのオリンピック大会に出発。
6	古瀬安俊（学校衛生取調べ囑託）福島県の教員に対し結核検診実施。この時初めてビルケー（ツベリクリン）反応が用いられた。
7 6	第5回オリンピック大会（ストックホルム）ニッポンより三島・金栗が初めて出場。三島が100・200・400m 走、金栗がマラソンに出場。（5.16出発シベリヤ経由）参加国28、参加者2541、メダル数1位スウェーデン。
7 30	明治天皇崩御 61歳。 レルヒ、旭川師団でスキー教授。 ペテルブルグ近郊のバルゴロフで最初のスキージャンプ大会開催（ソビエト）。 日本最初のスキー競技会（新潟、高田）。
1 20	二階堂トクヨ、イギリス留学のため出発。
2 16	第1回東洋オリンピック大会（マニラ）で開催 フィリピン・日本・中国が参加。明大野球部、田舎片善次・井上輝二参加、野球5マイル短縮マラソン、1マイル競争に全勝（2回より極東選手権競技会と改称）。
3 6	高等女学校令思考規則中、一部改正（体操は体操・教練および遊戯授くべし）。
5 31	上智大学設立認可。
9 26	大日本体育協会、規約を改正、国内オリンピック委員会としての性格を規程。
10 17	～19. 豊中運動場で大阪オリンピック大会開催。
10	F. H. ブラウン、体育事業の専門家として北米 YMCA から来日、排球を紹介。《脚注》
11 12	大日本体育協会主催、第一回陸上競技会を戸山学校で開く。
12 6	米大リーグ来日の初め（ジャイアンツ・ホワイトソックス）帯同の世界一周野球チーム来日。



レルヒ少佐のスキー指導

『スポーツと教育の歴史』 P. 74.


バレーボール（排球）

1895年にアメリカで生まれたスポーツです。ホリヨーク YMCA 体育主事のモルガン（W. C. Morgan）が考案した。当時のアメリカではバスケットボールが流行していたが、バスケットだと運動量が多すぎるし、体の接触があり危険ということで女性や子供など、誰でも気軽に行えるスポーツとしてできた。1910年頃初めて日本に入ってきた。

（財）日本バレーボール協会ホームページより

神戸女学院

年号	院長・学長・担当者	月	日	事項				
大正 3 (1914)	森亟子着任 (体操)		3	7	テニス、バスケットボールの競争あり。(第58号. P. 2.)			
			5		五月上旬山崎体操科教師辞職、後任として森亟子氏を迎う。(第58号. P. 4.)			
			6		家齊館落成 (ヴォーリス建設)			
			10	23	運動部長報告 同志社女学校にある友人より来信ありてこの期間中に一度テニスの試合を試みたき由申し参れり、この際振って諸子の奮闘を望む、この期に於ける各級の欠席者数及び理由別左の如し。(第59号. P. 28.)			
			11	2	月曜日毎朝始業前十分間深呼吸を理科学館前球庭にてすることとなる。(第59号. P. 23.)			
			11	20	自治会総会記事 運動部長 いよいよ23日テニスの試合を催す皆様各組より六名づつ選手を選ばれたしその日は凡て注意せられたし。(第59号. P. 29.)			
			11	23	院内記事 午前九時より講堂にて感謝祭執行、午前十一時より大阪梅花女学校及京都同志社女学校と連合にてテニス、バスケットボール等試合ありたりテニスに於ては普通部は見事本院の敗北する處たり。(第59号. P. 24.)			
			11	23	午前十一時より京都同志社及び大阪梅花女学校よりテニスのチャンピオンを迎え試合を初む、本校普通部連戦連敗、やうやく専門部塩見諸姉山岡諸姉によりて初めて勝利を占む。午後三時閉会す京都及び大阪よりの来会者二十九名なりき、同志社諸姉の白きたすきに其落ち着きたるスタイル梅花の諸姉の活発なる御態度我等の大に奨励となれり、以後テニスに対する熱心大に増進したり、従って体重を重んずること以前に倍し、毎朝礼拝前十分間全校こぞって深呼吸をなしつつあり (第59号. P. 24.) 自治会新舊役員氏名 運動部長 岩瀬あい、大本花代。(第59号. P. 28.)			
			大正 4 (1915)	ソール院長辞任 デフォレスト院長就任 (デフォレスト院長時代)				創立40年
						5	5	昼食後に一同講堂に集まり水曜日に毎に昼食後に行はるる合同運動に早く出席するように又朝の深呼吸に凡てのものが早く出席するようにとの特別なる注意が運動部長よりありたり。(第60号. P. 16.)
						5	21	歴史室に於て十二時半より役員会を開く。翌日開かるべき創立記念日のことについて相談す。ツタを植える式を自治会平石姉に一任。(第60号. P. 16.)
5	21	創立記念日を期し午前十一時よりテニスバスケットボール會を運動部主催にて開くべき件。(第60号. P. 16.)						
5	22	創立記念祝会、祝会后テニスマッチありたり。(第60号. P. 13.) 自治会記事 新役員 運動部長 平石 貞、副運動部長 平賀 榮。(第60号. P. 15.) 運動部報告 平石 貞。(第60号. PP. 19-20.) 《資料7》						
10	16	院内記事 全校生徒の発起にて雨天体操場の狭小に過ぎ不便を感じ居しが、比度創立第四十年を記念し、増築の計画成立し、其費用の一部にと大演奏會を催す。成功に終わり総収入高金四百八拾円五拾九錢五厘内実費七拾六円拾五錢五厘差引残高金四百四拾四錢を神戸女学院に生徒一同よりとして、創立四拾年の祝賀を表し、寄付に及ぶ。(第61号. P. 16.)						
11	4	遠足の記事 (第61号. P. 17.) 《資料8》						
11	20	秋季運動會を葆光館前運動場で開く(プログラムあり)。《資料5》(第61号. PP. 18-19.)						
12	5	神戸女学院運動會 大正四年十一月二十日秋季。《資料6》						

社会一般	
月日	事項
7 28	第一次世界大戦おこる。
8 10	大日本体育協会主催、第一回水上競技大会（大森）。
8 23	日本、ドイツに宣戦布告。 米人ブラウン国内各地のYMCAで籠球を指導。 日本楽器、ハーモニカ製造開始。 日本人初の自動車レース（東京・目黒競馬場）。
	
	セーラー服スタイル（1919年頃） 《脚注参照》
5 1	大毎、第二回日本オリンピック大会を豊中で開催。
5 22	第2回極東選手権競技大会（上海）21カ条要求の外交問題で日本選手出発が遅れ、途中から出場。 第2回極東大会（上海）
5	第3回極東選手権大会東京開催の件決定。（東京YMCA）
6 10	大阪朝日新聞社主催、第一回全国中等学校優勝野球大会。豊中グラウンド。
8	アメリカ加州、日本人排斥帰化反対決議。
9	女学生に袴をくくったブルマー普及。体操服について《脚注》（写真P.158） 可児（カニ）徳、体育研究のため留学を命ぜられる。 東京高等師範に体育科を新設。 オリンピックの旗、五輪旗をクーベルタンが考案し制定さる。

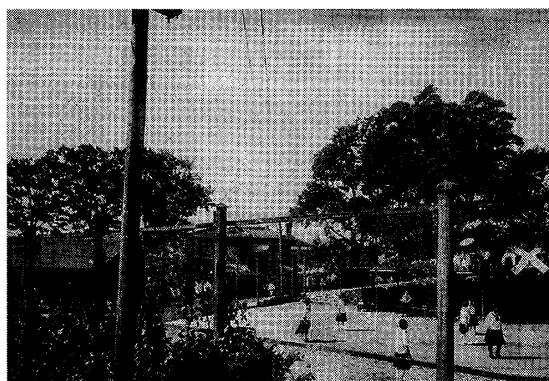
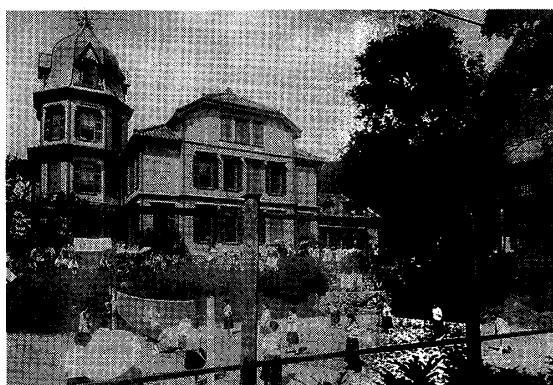
体操服について

体操科は欧米から輸入された教科ですが、日本にはスポーツに適した服装は近代までないに等しく、明治後半期に入り、女子体育の推進論が強く台頭し、女性の運動服の改良が緊急の課題になりました。ようやく1905年に「体操遊戯取調委員会」の報告書に、運動服問題の解決の一案が紹介され、これにより女学生の運動の服装について、和服の改良が盛んに試みられました。服装の歴史は、人間の歴史でもある。特に女性の服装はその時代の女性観をも表現するといえます。

（奈良女子高業師範学校における運動服の変遷より）

神戸女学院

年号	院長・学長・担当者	月	日	事項
大正5 (1916)	ソール院長 名誉院長に就任	3	10	創立40周年を記念して雨天体操場増築 院内記事 午後三四校校時に渡りて大阪医学博士木下氏を聘して体育に関して講演ありたり。(第62号. P. 64.)
		10	31	院内記事 天長節の比なれば午前八時より講堂に於いて市内各協会聯合祝賀式を挙す。式後親睦会を催し数番の余興あり、引き続き校庭に於いて運動会行われたり。(第63号. P. 11.)
		11	3	立太子御瑞慶を祝し奉るため午前十時より講堂に於いて祝賀の式を挙行、午後当居留地遊園地に於いて市内男女中等学校聯合奉祝運動会催され生徒職員一同これに赴むけり。(第63号. P. 11.)
		12	5	院内記事 午後十二時半より校内運動会を催す。時雨の降りかかりたがプログラムを無事終る。父兄の出席多数なりき。(第63号.) 各時代の感想 渡部 悦 第23回卒業 体操及び運動は音楽館の3階でしていた。(第61号.) 自治会役員 運動部長 塩見 信。(第61号.) 院内記事 三月二十拾九日三十拾日に渡りて創立第四十年祝会を催す。(第62号.) 運動の必要 三瀬つた子、普通部二年。(第63号. PP. 27-28.) 《脚注》



VOLLEY BALL GAME, JUNIOR COLLEGE THIRD YEAR TEAMS
ON THE ONLY COLLEGE TENNIS COURT

高等部三年生のバレーボール
(園内に於ける唯一のテニスコートに於て)

運動の必要

普通部二年 三瀬つた子

世は一步一秒と進み行く此の繁雜なる中に立ちて我等は
おくれを取らぬ様活動する事肝要なり。

日々座して深き考もなく何の働もせずブラ／＼と日を
送る年若き乙女を見よ。

朝は星をいたゞき夜は月の中天にかゝるまで働く農家
の娘と其の顔色に天地の差あり。其の目に力なく其の
手足の細きことかまきりの如きに引かへ林檎の如き頬

鐵の如き四肢と何れが我等に快感を與ふか。一方は風
にも堪へて飛んとする様なるに一方は如何なる猛獸を

も取り押へん氣力見ゆ。

春來りて花笑ひ秋來りて遠足運動の期來たれ共眞に喜
ぶ事なく如何なる美食を味はふとも常に不快にて日を

送るなり。人間と生れ諸人の喜を喜とせずたのしみと
せず日々退屈なる日を送る人々は如何に其の一生の不

幸なるか此の繁雜を極めし世の中に一人前の人として
立たんとせば先づ身體を丈夫にし以つて智徳をみがく

べし如何なる才子にても身體弱くば功を見る事難し。
身體を強健にする方法は只食物衣服の注意に怠らざれ

ば可なるか。否素食素衣にしても其の運動を適宜にせ
ば身體は自然に強健となり常に清潔にして身體に伴な

ふ衛生に注意を怠らざれば可なり。

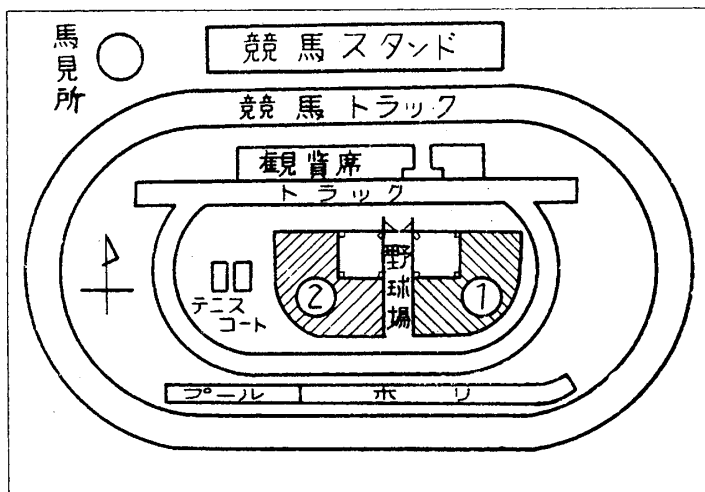
世の進歩すると共に女子の強健なるを望むこと切なり
時世に勝たんとする者日々を愉快に送らんと欲する者

皆運動の精神を怠らざるべからず。各自注意を成し國民
とどりて此の點に心掛なば延いては健全なる國家を成

立する事と成る可し。
現代の少女は運動の必要を知りて心を專一にし身體を
強健にせざるべからず。

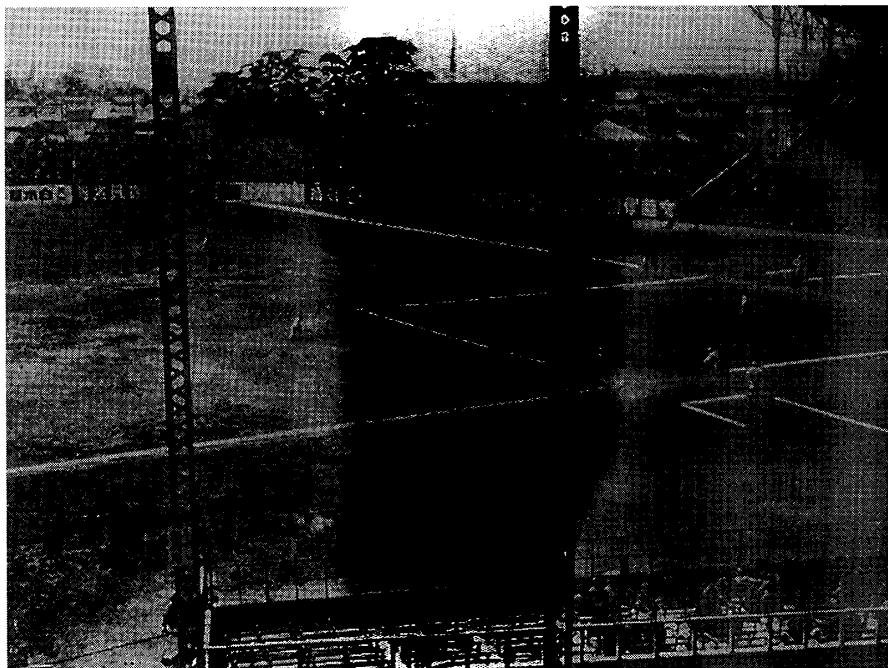
故に運動は未來現代共に其の必要大なり。

社会一般	
月日	事項
2 27	体協主催十哩断郊競技競走
3 29	教員検定に関する、規程中、体操科を体操科中体操に改める、体操科中撃剣および柔術の試験は女子には行わず。
5 20	大毎、第三回日本オリンピック大会を豊中で開催。
10 27	朝日新聞主催第一回東西対抗陸上。(鳴尾)一周八百米の競技場新設。《脚注》ドイツで予定されていた第六回オリンピック大会(ベルリン)は、第一次世界大戦のため、中止される。 東京女子大学新設。 京都YMCAに日本で初めてのボーリング・アレー完成。



往時の鳴尾運動場図(浜甲子園・大正時代) 大正6年、阪神競馬場内に鳴尾球場が竣工。球場は二つあり、全国中等学校野球優勝大会では両方で試合ができ、効率的に日程を消化していった。他に、直線コース100メートル・トラック800メートルを有する当時の関西では唯一の陸上競技場やテニスコートなどがあった。

『目でみる西宮の100年』より



(大正末～昭和初) 甲子園球場

『目でみる西宮の100年』より

神戸女学院

年号	院長・学長・担当者	月	日	事項
大正 6 (1917)	教頭木村徳蔵 (生物、生理) T. 2. 10. ~ 11. 3. T. 8. 大学部長に就任	4	27	普通科を高等女学部と改称 登山会日鑑山、六甲山、ツエンテークローシング、鍋蓋山、摩耶山、城ヶ越山、の各方面に出発、十二分の快を盡し帰院す。(第64号. P. 5.)
		5	19	梅花女学校にて開かれしテニス大会に当校よりは木村教頭、森教師及び2学年以上の選手出場せり。(第64号. P. 5.) 運動部 (第64号. P. 12.) 《脚注》 風俗部の所感 杉 みさを、(略) 私共は身をまとふに学校の生徒として最もふさはしい服装をたもたなければなりません、私はその標準として質素といふ二字を各々もつと深く心にとめてほしい御座います、私は今ここに憚らず断言しませう、女学院スピリットといふものは決して決して華やかな着物を着て肩で風を切って道を歩くものではないといふことを、私共はもつと心に輝きある着物を着なければなりません、そして真に清い麗しい校風を造らなければなりません、(略) 真に尊い女学院スピリットを發揮致さうでは御座いませんか。(第64号. P. 13.) 母校のおとづれ 教頭 木村徳蔵、大正三年の四月には体操科に森教師、来任。森教師の体操に熱心なるとその原理の徹底及び技術の優秀なることは世に少ないと思ひます実によき教師を得たと思ひます、毎朝生徒一同に深呼吸させたり又生徒の規律的動作等の変化は実に同教師の力であります、信仰厚き人であります。(第64号. P. 18.)
		10	6	遠足甲山に登る筈なりしも雨天にて中止。(第65号. P. 2.) 遠足中止されしに付き其費用を水害地に寄付することに決す。(第65号. P. 2.)
		10	18	自治会報告 奥村政枝 天長節祝日には、私共の年中行事の一つである三校のテニスの仕合を本院テニスコートに於てしました。幸いに梅花同志社両校ともに澤山の先生方姉妹方がお見へになって、運動上の目的も十分達し、同時に親睦を致して、嬉しく存じた事でございます。
		10	31	(略) 11時よりバザーあり自治会員も御助として余興メーダンス音楽狂言等を寄贈せり。(第65号. PP. 14-15.)

運動部

運動奨励の中心として教頭並にミスグレースト
森先生を頂く我等三百餘の生徒各自の中に体育に對する觀念の著しく發達せしを見る事を得るは實に喜ばしき事なり。

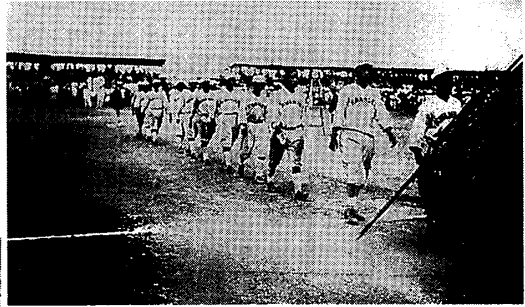
忙しき學課の暇々には二つのテニスコートに絶間なくラケット持ちたる甲斐々々しき姿を見、日々にボールのひびきも聞えゆきて校内一般に活氣みちたり五月十九日大阪梅花女學校々庭に於て開かれし、三校(京都同志社女學校、梅花女學校、女學院)聯合のテニスマッチに我校よりも一流の選手十數名を出したり、日々の熱心なる練習の結果以前に數倍する好成績を上げだるは前途有望なりといふべし、我校得意のバスケツトボールの遊戯も依然として盛んなり、汗にまみれしにこやかなる顔其活潑なる姿實に女學院將來の爲め賀すべきなり。

生徒全体としては毎朝始業前五分間を深呼吸に費す寄宿舎に於ても就寝前に一同外に出で、同様の呼吸運動をなし以つて益々健全なる身体と明晰なる頭腦とを養はんす。

かくして後日社會に活躍し世の爲神の爲めにと拔んで盡す人の多く出でんことを期す

社 会 一 般

月 日	事 項
4 27	～29. 読売新聞社、京都－東京間駅伝競走を開催（駅伝の名称をはじめて使用）。《脚注》
5 8	～12. 第三回極東選手権競技大会、東京芝浦で開催。日本、初めて正式参加。バスケット・バレーボール（日本最初の競技会）。
7 9	東京基督教青年会体育館で室内温泉水泳場開場。日本温水プール初め。
8 14	～20. 第三回全国中等学校優勝野球大会開催（鳴尾）。愛知一中 1－0、関西学院中学部（入場式を初めて行う）。
9 5	前田末吉喜《学校お呼び家庭に於ける医療体操の理論及実際》（医療体操書の初め）。
11 夏	ロシア社会主義革命起こる。 この頃から避暑旅行にでかけるもの増加 薙刀の訓練は小学校女子児童の必修であった。



目で見る『神戸の100年』

関西学院中等部 全国中等学校野球大会で優勝



目で見る『神戸の100年』

薙の練習

駅伝

唐の時代のしくみ、諸道の所々に駅を設け、緊急の官使が用いる駅馬（えきば）、不急の用にあてる伝馬（てんま）を置いた。

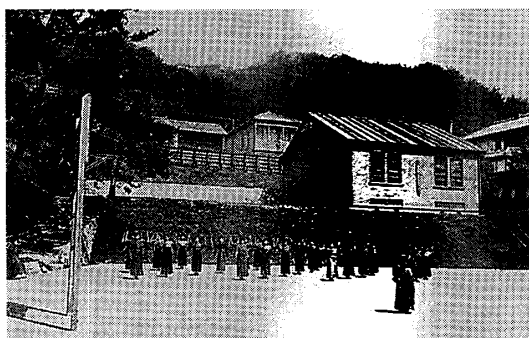
スポーツの用語として初めて登場したのは京都－東京間を走った「東海道駅伝徒歩競争」1917年（大正6年）のことになる。名付け親は主催した読売新聞社会部長で歌人の土岐善磨と伝えられる。（略）

競争規定に「襷の手渡し」を定めたのもこの大会が最初である。

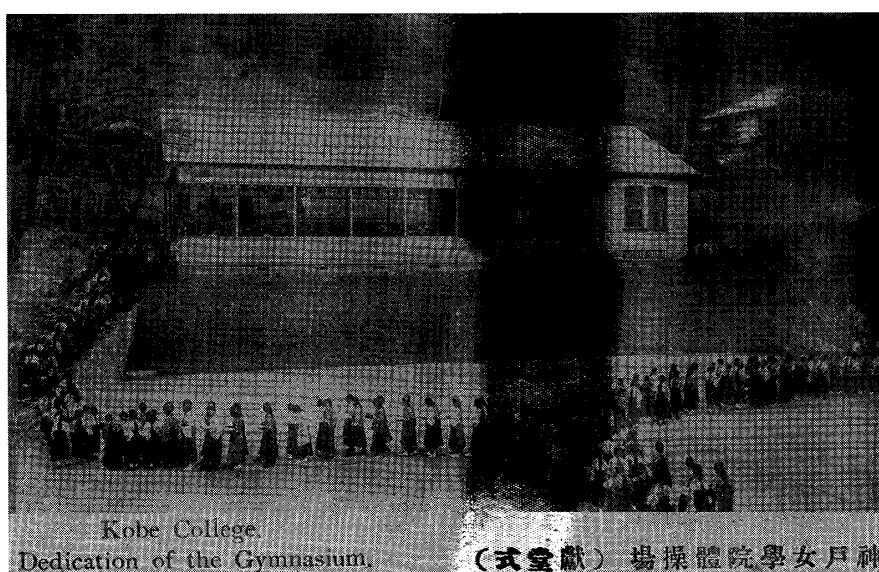
読売新聞 2005年1月3日の記事より

神戸女学院			
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項
大正 7 (1918)			(デフォレスト院長より宣教師會に報告の一部) 生徒の健康は遠足運動は勿論日常の体操毎朝の深呼吸等によりて好成績を見る。(第65号. PP. 12-13.)
		4 18	米澤牧師は身体の為運動場にて深呼吸をなす如く講堂にても我等は深呼吸をなすべしと懇々と語られる。(第65号. P. 9.)
		5 4	遠足各級道を異にして午前八時二十分より塩ヶ原指して行きぬ天気晴朗にして美しき自然の大気に触れ帰院せしは四時過る事数分。(第65号. P. 9.)
		10 18	院内記事 箕面明石の二方面に生徒一同遠足す。(第66号. P. 4.)
大正 8 (1919)	高等女学部長 川崎一蔵 T. 8.9. ~		教頭木村徳蔵先生、大学部長に就任。 川崎一蔵、高等女学部長に就任。 専門部を大学部と改称。
		4 25	院内記事 全校生徒一同再山塩原に遠足。(第67号. P. 10.) 造営物 雨天体操場の増築は経費四千元を以て既に着手せられ当夏期中には竣工の予定である。四年前に生徒の団体が文学會を公開して取得した、四百円を此の建築の為に寄付したのが第一で次はミッションの子弟及び其友人等の寄付約千五百円で会った。残りの二千円余はシカゴのモーゼス、スミス夫人の手を経て受領したのである。(第67号. P. 6.) 寄宿舎だより (略) 少しでも寄宿生の健康を増進させようとの先生方のお心尽しは、火木土の夕食後のダンス会となって現れている (略) テニスも盛んにやっている。(第67号. P. 15.)
		9 11	院内記事 数年来の希望なりし雨天体操場拡張工事夏休中に終わりて捧堂式を挙行せり、賛美歌二百七十三を勇ましく歌いつつ入場す院長は殆ど若き者のみの寄附によりて建てられし由縁を述べられ床板に米産オリガン松を用いる (略)。(第68号. P. 3.)
		9 19	院内記事 自治会の催しにて新任高等女学部長川崎先生 (略) 歓迎会を開き余興は運動部長平井姉の考によりテニスコートに於いてはじめしも折悪く俄雨の為に中止となる。(第68号. P. 4.)
		11 3	矯風会記事 (略) 丁度来土曜日六月五日は市内の女学校のバレーボールの対戦試合があるのでその準備に選手の方はテニスコートに集まって稽古 (略)。(第69号. P. 8.) 自治会報告 此の頃運動が大変盛になりまして、殊に近くバレーボールの試合を控えた選手達の活動振りは見る目も愉快です。又大島先生の御厚意により弓術をも教はる事が出来るようになりました。テニス、バレーボール、バスケットボール、弓術、ダンス様々の運動が盛んとなりました事は、物質的に清い強い神の宮を作る事と喜んでいきます。(第69号. P. 9.) 運動部長 塚生艶子

社会一般	
月日	事項
1 9	神戸ゴルフ倶楽部の開祖、グループ没、73歳。
1 12	大毎主催第一回日本蹴球大会。
4 20	朝日新聞社、第一回中等学校選抜陸上競技大会を鳴尾で開催。
4 30	東京女子大学（私立専門学校）開校。
8 16	第四回中等学校優勝野球大会、米騒動で中止。
10 25	東京大学対高等師範陸上競技（対校陸上の初め）。
10 26	文部省、流行性感冒予防に関する件を通牒。30日修学旅行・遠足・運動会などに関し追牒。
11 11	第一次大戦休戦条約成立。
11 14	学習院の女学部独立して、女子学習院となり、この日開校式。
12	大学令を公布、公立私立大学を認め予科を置くことができるようになる。（日本女子大学学園史 P. 711）。 少年野球のゴム球発明され、競技はじまる。 京都野球研究会、野球の軟式ボール考案。
3 17	体協、極東体育協会脱会を通告。極東大会に日本青年運動倶楽部代表団体となり参加す。
6 15	オールコックとブラウン（英）、ビミー双発機大西洋無着陸横断飛行に成功。
6 28	ベルサイユ条約調印され大戦終わる。
11 8	～9. 体協、第七回日本陸上競技選手権大会を鳴尾で開催。 大阪・茨木中学校に日本初の屋外プール。





明治41年に1棟建築された雨天体操場



大正8年に増築された雨天体操場

(社)神戸女学院教育文化振興めぐみ会所蔵

神戸女学院				
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項	
大正 9 (1920)	岩佐留吉着任 (体操)  池内貞子 (小倉) T. 8. 4. ~T. 12. 11. (裁縫) 小林今朝枝 T. 9. 4. ~T. 13. 7. (国語)	1 12	北野寮設立。	
		3 8	デフォレスト院長、帰米。(第69号. P. 4.)	
		6 12	院内記事 川崎部長は体育をすすめる。(第69号. P. 4.)	
		8 6	神戸支部便り。《脚注》	
		9 1	武本氏より会長への手紙 本院大学部に在学せられし武本文代姉は主として体操科研究の目的を以って此程米国に渡航せられしが同姉旅費中に本会より金二百五十円を送りたるに對し父君より謝状を会長宛寄せられり (第1号. P. 64.)	
		10 8	ソール名誉院長、帰米。(第1号. P. 10.)	
		10 14	院内記事 十月八日大学部三年生全部一週間の予定にて日曜学校世界大会出席を兼ね卒業旅行のために上京せり。(第1号. P. 10.)	
		10 14	院内記事 十月十四日高等女学部五年生池内、小林両先生引率の許に四国へ卒業旅行の途にのぼる。(第1号. P. 10.)	
		11 3	院内記事 十一月三日午前八時半より校庭に於いて小運動会を催し各種の演技をなせり。(第1号. P. 10.)	
				 <i>A game of basket-ball is enjoyed by young and old. The teacher in white is umpiring.</i> 旧師西山敏子先生所蔵

神戸支部便り

丁度其日は母校校庭で第二回目の女子バレーボール大会がございます(略)バレーボールが一時頃より始まって居りましたので、一心に見て居りました(略)女学院の発展した事を喜ぶ意味として今日などもバレーボールなどする様になった体育の方も発達(略)会の余興としては、バレーボールを見る計をしておりました。私共は一生懸命に応援してとうとうこの女学部が優勝いたしましたのでやれやれ当日バレーボール及びテニス、マッチの出技者の姓名は大学部より菅間、田中姉妹、小早川、山口、吉川、平瀬、白井、井上、畑野、島村、武本、東浦、富岡、松下及び平尾諸姉の十六名。高等女学部よりは山本、米澤、野口、島田、八木、深澤、高倍、土井、澤野、瀬川、橋本、中西、桑原、織田、山本及び中谷の諸姉十六名。又同日に関西女学生庭球の第二回大会が大阪時事の主催にて大阪府夕陽丘高等女学校校庭に行われた。之には同会の第二部へ母校の大学部より花岡、松本、中村、塚生の四姉を二組として三浦先生と木村先生とが引率され約二十名の応援者と共に出技し花岡松本組は第一回戦にて大阪梅田組に勝ちて第二回戦に泉南組に破れ中村、塚生組は同会二十二校の最優勝者とも云わるる泉南組に敗をとりましたが、随分活気に充ちた競技でした。(第69号. PP. 57-59.)

月 日		事 項
1	1	兵庫開港。神戸に外国人居留許さる。
1		大日本スケート会結成。
2	5	慶応義塾大学、早稲田大学、大学令による初めての私立大学として設立認可。
2	14	～15. 報知主催第一回東都大学、東京-箱根間駅伝。
2		軟式野球協会創立。
4	15	明治、法政、中央、日本、国学院、同志社の各私立設立認可。
5		報知主催第一回全国中等学校、東京-横浜間駅伝。
6	1	日本漕艇協会創立。《関連事項 脚注》
7	6	高等女学校令、を改正公布。
7		文部省、高等女学校生徒定員を増加し、入学難に対処。
8	2	～4. 全国少年野球大会開催（鳴尾）。
8	7	～21. 大阪 YMCA の少年部、初めて六甲山でキャンプ。
8	15	～30. 第7回オリンピック大会（アントワープ）に日本は陸上競技（10人）、水泳（2人）、庭球（2人）参加。庭球 熊谷一弥シングルス2位となる、熊谷・柏尾誠一郎ダブルス2位となる（日本人初のメダル）。参加国29、参加者2606。五輪旗初採用。
8	20	第一回国際女子陸上（女子五輪）大会開催。
10	23	～24. 第一回全日本選手権競漕（両国-高艇庫）。
11	23	～25. 朝日新聞社、大阪ローンテニス・クラブ・コート（豊中）で全国公式庭球大会開催。日本最初の硬球大会。
12	16	改正実業学校令を公布。 政府、学制を公布。 第一回国勢調査、内地5590万人外地2102万3326人、約8000万人。（奈良女子大学学園史）

各種スポーツ団体の創立とオリンピック参加年次 (131)

種 目	創立年次	日本選手権 オリンピック	
		開始年次	参加年次
ボート	1920	1920	1928（アムステルダム）
サッカー	1921	1921	1936（ベルリン）
卓 球	1921	1922	×
テニス	1922	1922	1920（アントワープ）
ホッケー	1923	1923	1932（ロサンゼルス）
軟式庭球	1924	1924	×
水 泳	1924	1914*	1920（アントワープ）
陸上競技	1925	1913*	1912（ストックホルム）
スキー	1925	1923*	1928（サン・モリッツ）
ボクシング	1926	1926	1928（アムステルダム）
バレーボール	1927	1921*	1964（東京）
バスケットボール	1930	1921*	1936（ベルリン）
体 操	1930	1930	1932（ロサンゼルス）

*は大日本体育協会主催による

『スポーツと教育の歴史』P. 76.

神戸女学院				
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項	
大正10 (1921)	鞍橋己之助 T. 9.10. ~ (地理、歴史)	3 2	十二時半講堂に於いて自治会主催鞍橋先生、岩佐先生、新任歓迎会を催したり。(第1号. P. 11.)	
		3	木村大学部長、辞任。	
		4 27	本日より生徒身体検査開始。(第1号. P. 12.) デフォレスト院長、帰任。	
			院内たより 現在の寄宿舍 夜の深呼吸の場所も元は西舎の廊下と前の道だけで結構でしたが此の頃はテニスコート全体を用いなければ間に合はなくなりました(第1号. P. 30.) 《写真》 個人消息 ジ、ストウ師は会計としてまた英語、生物学を受持たれ御忙しき御様なるも何時でも御元気なるは嬉し、バスケットボールもお蔭で盛んで御座います。(第1号. P. 40.) 個人消息 岩佐留吉師女学部の体操を教へまた院内週報の係をなさる。(第1号. P. 40.) 個人消息 森巫師は昨秋より専ら大学部の体操を受持たれなかなか英語に御熱心な御様子。(第1号. P. 40.) 個人消息 中島きく師当春大病なりしも御全快喜びに不堪。(第1号. P. 39.) 個人消息 松永栄吉師、校医として生徒の健康増進の為に尽くさる。(第1号. P. 39.) ソール名誉院長、帰院。	
	10 1	院内記事 午後二時より市内高等女学校テニス競技を本院グラウンドにて催す。(第2号. P. 9.)		
	10 13	院内記事 本日より三日間の予定にて高等女学部五年生は近澤莊原両教師統率の下に山陰地方出雲大社方面に修学旅行に出発せり。(第2号. P. 9.)		
	10 14	院内記事 午前九時半より葆光館グラウンドに於いて小運動会を催す。(第2号. P. 9.)		
	10 27	院内記事 和歌の浦、奈良、明石、諏訪山の四方面へ修学旅行をなす。五年生は尼ヶ崎工場を見学せらり。(第2号. P. 9.)		
	11 23	院内記事 午前十時より加古川高等女学部にて大阪毎日新聞神戸支局主催にて県下高等女学校バレーボール大会あり。本院大学部高女部より各一組出演せり。(第2号. P. 9.)		
		松永栄吉 (校医) M. 37. ~T. 11. 9.		
		近澤静 (裁縫) T. 3~ 莊原秀 (英語) T. 6. 4. ~T. 12. 7.		

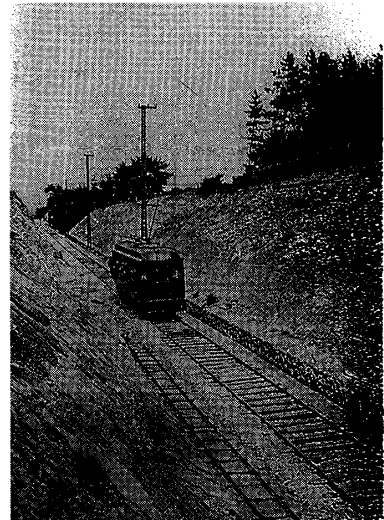


深呼吸をなす大学部 大正10年

『神戸女学院 1875~1925』

社 会 一 般

月 日	事 項
1 30	体協と日本青年運動倶楽部代表と会見。第5回極東選手権競技大会参加の件に関して覚書作成。
3 8	体協の嘉納会長辞任。名誉会長に推選され、岸清一、会長となる。
4	尺貫法をメートル法に改正。《資料14》
4	羽仁とも子、自由学園を設立し開校。
5 4	第5回極東選手権競技大会派遣。水上競技予選会を三笠園で開催、扇足は影をひそめ、クロール時代となる。
6 22	内務省、保健衛生調査会総会で体育奨励方法の調査を決議。
6	全国マラソン連盟創立
9 10	大日本蹴球会創立：現サッカー協会。
9	日本初めてデビスカップに参加（熊谷・清水）。
10	大日本卓球協会創立、後分裂、昭和六年再結成。《脚注》
11 19	～20. 体協、陸上競技会を機会に第1回バスケットボール、バレーボール選手権大会を駒場で開催。
11 26	～27. 第一回蹴球選手権大会開催
11	第一回籠球選手権大会（東大農学部コート）開催。
12	関西学生陸上連盟第一回大会。
12 30	～4. 第5回極東選手権競技大会（上海）に日本選手全種目に参加。8種目選手権のうち、日本は独走のマラソンを除き7種目全敗。 各大学・専門学校、庭球の軟球を捨て硬球に移る。 大谷武一、ソフトボールを日本に紹介。《脚注》 各大学、専門学校、庭球の軟球を捨て硬球に移る。 文部省、学校用机、腰掛の標準に関する件について通謀。（机、腰掛が身体発育に支障をきたさないようにするため） 西宝線という名称で今津線が開通（阪急）。



阪急今津線（当時は西宝線）
『目でみる西宮の100年』より

卓球

卓球は1890年代のイギリスで、テニスの代わりに食事のあとに楽しんだのが始まりといわれている。その頃の道具はラケットに葉巻入れのふた、ボールにはシャンパンのコルクを丸めたものが使われたそうだ。日本に卓球が紹介されたのは1902年（明治35年）頃のこと、1921年（大正10年）日本で最初の統括卓球組織が設立され、公式試合が行われるようになった。

（財）日本卓球協会ホームページより

ソフトボール

日本における最初のソフトボールは、1921年（大正10年）アメリカから帰国した東京高等師範学校教授大谷武一によって、学校体操科の遊戯として紹介されたことに始まる。

（財）日本ソフトボール協会ホームページより

神戸女学院			
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項
大正11 (1922)	三浦義蔵 (数学、理科) T. 6. 4. ~ 羽太連 (本学院卒) (地理、体操) M. 34. ~M. 40. 12.	3 15	向上館奉堂式
		6 15	皇后陛下御使大森男爵、来院。 校医松永氏体格検査結果につき講話あり。(第2号、P. 11.) 三浦先生はあいかわらず元気旺盛、(略) テニス、バレーボール等運動奨励は先生に持つところ多大。(第2号、P. 63.) 会員消息 羽太連姉折々御来訪いつも元気です。(第2号、P. 65.) 自治会(略) 運動も盛んです。7月には、兵庫県内女学校バレーボール試合がありまして、当院女学部より二組出場致しました。負けましたが、ほんとに美しいゲームを成さつて、嬉しいでした。徒歩会の計画も致して居ります。(略) (第2号、P. 24.) 個人消息 山崎仲江師、昨年十一月二十六日永眠さる、悲し。(第2号、P. 62.) 先生方の御近況 岩佐先生は温厚篤実御授業の外に色々の面倒な事務をも引受けてなさいます。これは又体操の先生とは思へぬほどです。(第2号、P. 64.)
大正12 (1923)	大学部長 畠中博 T. 12. 9. ~ 池田彰 (校医) T. 11. 9. ~ ミス・グレース、ストウ、 (英語、生物) M. 43. ~ ミス、ベドレー、 (英語、生物、院長書記) T. 10. 9. ~T. 14. 7.	3 24	畠中博、大学部長に就任。
		4 27	同窓会総会において財団法人神戸女学院寄付行為案が承認される。
		5 1	院内記事 午前八時上筒井終点集合、甲山に遠足す。(第3号、P. 9.) 院内記事 本日より大学部、高等部、音楽部身体検査を執行す。(第3号、P. 9.)
		5 24	院内記事 午前八時半より自治会薦植式に引続き創立記念祝賀式挙行、九時半より一団は大阪に於ける極東オリンピック大会へ汽船にて他の一団は春日野なる創立者タルカット師の墓地へ参拝す。(第3号、P. 9.)
		5 29	院内記事 礼拝時池田校医の「身体検査の結果につき」講話ありたり。(第3号、P. 9.)
		6 15	院内記事 放課後大学部のテニス会及女学部対松蔭女学校のバレーボール会ありなり。(第3号、P. 9.)
		10 12	院内記事 礼拝の後夏休中中高等女学部一、二、三年に課せり健康軍につき岩佐委員より結果報告ありたり。(第3号、P. 7.)
		10 14	院内記事 午後二時大学部グラウンドに於て大阪時事新報社後援の市内女学生の庭球試合あり。(第3号、P. 7.)
		10 19	院内記事 大学部三年及高等女学部五年は本朝出発三日間の予定にてそれぞれ修学旅行を催す。(第3号、P. 7.)
		10 20	院内記事 岩屋、明石、諏訪山の三方面に遠足せり。(第3号、P. 7.)
		10 30	院内記事 午前九時より学制頒布五十周年記念式を挙行し、式後諏訪山頂に運動せり、午後より各代表者の一隊は大蔵谷校地に記念植樹式に、(略)。(第3号、P. 7.) 院内だより 自治会運動部 東浦ふみ(略) 過去七年間、自治会の顧問として御尽力下さいました、特にバスケットボール御奨励の為に尊い時間をおさき下さいました、グレース、ストウ先生が、御休養の為に先日御帰米の途につかれました、御健康を祈ります。先生の代わりに、テニス、もバスケットボールでも、バレーボールでも何でもなさいますミス、ベドレーが顧問役を御つとめくださる事になりました。(略) 過日大阪で催されました極東オリンピック大会に今年は女子も参加し、特に親しいバレーボール選手権が関西予選大会で決せられるといふ事が発表せられて以来、私共の血はどんなに踊っていたでせう、学院を通じて、ただ一つのチームをつくってかなり練習を重ねて居りました、併し残念な事にも当日は雨が降った為に予選大会は日曜日に日延べになり、女学院は、日曜日は駄目なので幸か不幸か戦わないでしまいました。(第3号、P. 12.)

社 会 一 般		
月	日	事 項
2	11	フィギュア・スケATING初めて諏訪湖下諏訪リンクで公式競技。
2	11	ワシントン軍縮条約調印。
3	11	日本庭球協会創立：現テニス協会。
4	5	横浜・神戸外人間で初めてヨット競技。
4	15	二階堂トクヨ、二階堂塾を代々木山谷に開く。(’24.1.25松原に移転、’26.3.24日本女子体操専門学校に昇格)
5		ダンス大流行し、警視庁取締りを始める。
8		大谷武一、ハンドボールを日本に初めて紹介。《脚注》
10	14	～15. 大阪体育協会、水上競技選手権大会を茨木中学で開催。(関西における女子競泳の始まり)
11	18	～19. 最初の女子硬式庭球関東女子トーナメント開催。 官、公、私立大学の設立認可続出。 日本乗馬協会設立、後に改称・解散。
2	10	体協、第一回全日本スキー選手権大会を小樽で開催。
3	8	東京で、初の国際婦人デー集会。
5	21	～26. 第6回極東選手権競技大会、大阪で開催、この大会に天皇杯(優勝杯)下賜。
8	16	第九回全国中等学校優勝野球大会、鳴尾で開催、甲陽中5-2和歌山中。
9	1	関東大震災。
10	1	体協、第8回オリンピック大会参加の宣言発表。
11	1	講道館開催軍坂道場において、女子部および幼年部の授業開始。本田存がその任にあたる。
11	18	大日本ホッケー協会創立。
12	1	第一回全日本ホッケー選手権大会、戸山学校で開催。 リンク体操 国際リンク体操連盟 (FIGL) 設立。 ボーデ《リズムと体育》ドイツ。 全日本ラ式蹴球協会結成。 ル・マン24時間耐久レース始まる。

ハンドボール

コンラッド・コッホ (1846-1911) によってドイツで開発された。第1回目の試合は1917年、ベルリンで行われた。1936年台1回ベルリン大会からオリンピック競技になったがその後外れ、1972年第20回ミュンヘン大会で復活。女子競技は1976年第21回大会からオリンピック競技になった。

日本に初めて紹介されたのは1922年(大正11年)7月に行われた大谷武一による日本体育学会夏期講習でのことでした。
(財)日本ハンドボール協会ホームページより

リンク Pehr Henrik Ling (1776-1839) スウェーデン体操創始者

彼は、ドイツのヤーン、デンマークのナハテガルに見られるように国力の回復は勇敢で健康な国民の育成にあると考え、スウェーデン国民の身体向上を達成するために尽力した第一人者である。ナハテガルに学んだ彼の体操は、グーツムーツの「青年のための体操」とフィートの「身体運動のシステム」にその源を発するものであった。体操は解剖学と生理学を基礎にして行われるべきであり、身体の完成を窮極の目的とする肉体運動の一連の系列であるという原則に基礎をおいた。身体の調和的発達、その人の体の状態に応じて適切にコントロールされた運動を考察しその運動において身体のあらゆる部分をその人の自然の限界までできる限り完全に調和・発達させることであった。教育・医療・兵式・美的体操の4部門に分かれるスウェーデン体操は、1902年～3年川瀬元九郎、井口あぐりによってわが国に紹介された。スウェーデン式日課案は、①準備体操 ②主運動 ③整理体操 の3部門からなっている。1913年(大正2年)学校体操教授要目に交布された中心の教材はスウェーデン体操であった。

本学院中高部体育室・大学体育館には、当時授業として使用していた助木が壁面に備え付けられている。スウェーデン体操補助教材として使用したものが、今も体育の備品として残されている。《資料16》

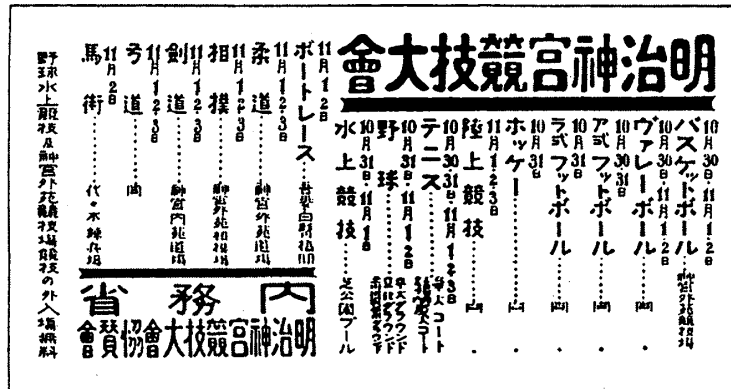
神戸女学院

年号	院長・学長・担当者	月	日	事項
大正13 (1924)	武本文代着任 (体操、衛生)	1	26	院内記事 午前八時半より摂政宮殿下の御成婚祝賀式を挙行す、式後大学部の祝賀ダンスありたり。(第4号. P. 12.)
		3		中部伝道会総幹事リー婦人、来院。
		5	2	院内記事 上筒井集合、全校共に六甲登山す。(第4号. P13.)
		5	5	院内記事 大学部体格検査開始。(第4号. P13.)
		5	30	院内記事 大学部及び高等部のバレーボールの試合あり。(第4号. P. 13.)
		6	19	日米両国人教師一同の名をもって米国の排人移民法反対の決議を發表する。
		10	16	院内記事 松蔭女学校生徒と庭球の試合す。(第4号. P. 12.)
		11	2	院内記事 全校塩ヶ原に遠足。各部卒業旅行は本日より出発す。(第4号. P. 12.)
		11	10	院内記事 京都同志社に本院テニス選手を送る。(第4号. P. 12.)
		11	12	体育記念日の記 運動会プログラム(臨時号. 新聞形式別紙)《資料9、10》
		11		神戸女学院拡張中央委員会が設置される。 高等女学部より川崎市蔵先生記 過般催された毎日新聞主催のバレーボール大会には非常な大敗をいたしました。最初二カ年続いて優勝したレコードを有つて居る学院の選手とは思われぬ位でありました。他の学校が上手になった事も一理由でしたが練習指導の足らなかつた事は主たる原因であります。然し失望は禁物ですから更に捲土重来の時を待っております。(第4号. P. 10.)
				自治会 (略) 今年武本先生が御帰りになりまして色々と運動の方面に力をおつくし下さいますため当院の運動も益々盛んになって参りました。過日高等部、大学部のバレーボールの試合をいたしました。そしてその日の優勝の組の一人一人ユニホームの袖につけるように徽章さし上げて表彰いたしました。之は最初の試みでした。之からもこの様な事をして当院の運動熱を盛んにしたいと思つて居ます。又先日は県下のバレーボールの試合がございまして参加いたしましたが残念な事には負けました。供し地久節の日県下のテニスマッチが時事新報の主催の下に開かれまして当院から一組出ました。そしてその時には優勝戦にまで入り二等を占めバレーボールの時うけた恥辱をすっかりそそぐことが出来てよるこんでいます。(第4号. PP. 13-14.)
				個人消息 中島きく先生、健康療法を研究され、病弱の方々の為に、治療をして居られます。(第4号. P. 34.)
				個人消息 森先生、相変わらず、母校の大学部、高等部の体育の為に、真剣に御尽力下さって居られます。(第4号. P. 35.)
				第二章 健康軍の記事《資料13》神戸女学院第四十八年報。(大正十一年~十二年) (第3号. 付録デフォレスト述. P. 4.)
				川崎高等女学部部長は官公立の制度には従わず特に優れた子女を自由に早く助長させ進ませ度いと云う考で義務年限の六年の内五年を終わった児童からも入学申し込みを受けた。この方法は日本臣民の義務教育をより少なく受けんとするものではないことが市町村長に依り証明されるならばよいと云う許可を政府当局は与えて居ます十人小学五年より志願した中で三人が許されました。女学校でこの方法を試みたは女学院が最初でありましたが三人の成績は試みが成功であった事を示して居ます。(五十年報. 教育事項. P. 8.)
	中嶋きく (体操) M. 40. ~M. 42.			



社 会 一 般

月 日	事 項
3 17	東京市、水道橋に婦人職業紹介所開設。
3	女子体育協会結成。
4 26	日本軽量級拳闘選手権試合、日比谷で挙行（初めてのタイトルマッチ）。
4 26	秩父宮殿下、体協へ大日章旗下賜る。
5 10	日本漕艇協会、第一回フォア・スカル選手権を向島で開催。
6 15	～16. 第1回日本女子オリンピック大会を大阪で開催。
6 1	庭球協会、第一回全日本女子庭球選手権を東京ローンテニスコートで開催。
6 25	岸清一バリの IOC 総会で国際オリンピック委員に推薦される。
7 1	米国の排日移民法が実施される。
7 5	～13. 第8回オリンピック大会（パリ）日本は陸上8人、水上6人、テニス4人、レスリング1人参加、織田（三段跳）6位、斉藤（背泳）6位（800m リレー）4位、内藤（レスリングフェザー級）3位の成績。
7 5	～13. 第8回オリンピック大会パリで開催。参加国44、参加者3092。日本選手団に秩父宮から日章旗贈られる。マラソンの距離が正式決定。
7 31	羽越本線全通し、裏縦貫線完成。
8 1	甲子園球場竣工。
10 17	
10 30	～11. 3. 明治神宮外苑競技場完成、第一回明治神宮競技大会開催。
10 31	大日本水上競技連盟創立：現日本水泳連盟。
11 3	第一回全国体育デー、以後11年間行われる。《脚注》
11 25	～5. 第1回オリンピック冬季大会、シャモニー（フランス）で開催。参加国16、参加者293、メダル1位ノルウェー。初めて拡声機使用。 文部省体育研究所設立。 日本ゴルフ、アソシエーション創立。



明治神宮競技大会の案内ポスター

『スポーツと教育の歴史』 P. 76.

全国体育デー

大正期に入ると全国的に体育への関心が高まり、大正13年には明治天皇の誕生日であった11月3日が「全国体育デー」となった。秋を運動の適期とする意識はこうしたことが契機となって形成されるようになった。

国内最大の総合スポーツ大会「国民体育大会」の前身である「明治神宮大会」も全国体育デーに始まる。今日でも国体以外にも全国レクリエーション大会、全国スポーツレクリエーション祭など多くのスポーツイベントが秋に開催されている。

神戸女学院			
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項
大正13 (1924)		11	神戸女学院々長シャロット・ビ・デフォレスト述。 過去一年間に於ける常般的行事。 A. 校務管理について B. 教務について《資料11》 C. 社会的事業について《資料11》 D. 宗教的努力について 神戸女学院第49年報。
大正14 (1925)			創立50年。 50年を記念して家庭会創設。57名（専任37名、嘱託20名）、内日本人42名、外国人15名。
		2 25	院内記事 午後一時より日本夫人洋装普及会及整容会の山本ヒデ同久栄二姉の講演あり。(第5号. P. 13.)
		4 24	院内記事 全校登山遠足す。同上
		6 5	自治会 第二回大学部、高等部、音楽部のバレーボール試合を挙 行いたしました。(第5号. P. 14.)
		9 23	院内記事 秋季皇霊祭につき休業、市内山手小学校にて関西女子 庭球大会あり本院より二組出演して各賞を得たり。(第5号. P. 12.)
		10 16	院内記事 全校修学旅行を行う、卒業生は木曾方面へ、一般は姫 路へ。(第5号. P. 12.)
		11 1	文学会より(略)皆様も御承知の様に文相の訓示により学校劇を 禁ぜられました為に頓挫をきたさなければならぬ事になりました。 従ってかなりの困難も不幸も伴いはいたしましたが併し、幸 いにして午後六時半から例年の催しを開く事が出来ました事を喜 んで居ります。全プログラム中の異彩として、且つは問題の試み として当日の呼物と成って居りました英劇マクベスを白衿紋付で 演じた他、朗読、暗誦、演説、ダンス等今まで劇に代えて随分雑 多な種目を列べましたが音楽部のご尽力によりましてそれ等の間 に交々、独奏やらコーラスを入れて頂きました為にプログラムは 立派な調和を保って二時間半間を滑らかに進んでゆきました。 (臨時号. 新聞記事)
		11 3	院内記事 全国体育デー午後一時より体育懸賞演説会及体育ペー ゼントを催す。(第5号. P. 12.)
		11 28	院内記事 講堂にてサマーキャンプの活動あり。(第5号. P. 12.)
		12 5	院内記事 午後三時よりメートル普及会長石橋梅吉氏講演あり。 (第5号. P. 12.)
	実生スギ(本学院卒) (倫理心理) T. 4.4. ~ T. 5.7. T. 10.9. ~		創立50年 を記念事業の一つとして 家庭会設立(略) 今まで父 兄会と云うものは度々開かれたがたいの場合学校側に率先さ れて居たので生徒の家庭と学校とをもっと接近させる必要がある と云う事は長い間の懸案であった。大正十四年一月に正式に発会 式を挙げ約三百名の会員を得ました。(五十年報. 教育事項. P. 8.) 音楽部の此の頃(略) それに体育を第一ときて居るので此の頃の 寒さにピアノのキーを走る指を拳に固めてヴァレボールチーム を造り大層な活動です。(臨時号. 新聞形式別紙) 自治会便り(略) 体育の方面にも新しく御迎へし竹本の御後援の もとにテニスクラブ、バレーボールチーム等を組織し大いに運動 気分を登揚致しました。(臨時号. 新聞形式別紙) 部長制度：三部長、大学部長に畠中博(留学中)、実生スギ教授、 高等女学部部长に川崎市蔵、音楽部長に藤田とき教授。(臨時号. P. 2.) 五十年祝賀会および学院拡張会委員長、横浜市長有吉忠一閣下、 五十年女学院沿革史担当井深花子さん。

社会一般	
月日	事項
1	第一回全日本学生氷上選手権（松本）。
1	全国氷上競技連盟創立。
2 7	日本学生射撃連盟結成、日本ライフル射撃協会の前身。
2 15	全日本スキー連盟創立。
4 25	大日本体育協会改組し総合競技団体となる。
5 5	普通選挙法が公布される。
5 16	～23. 第7回極東選手権競技大会（マニラ）、陸上競技選手審判問題で総退場、以後競技棄権。
6	警視庁、ダンスホール入場者の住所、氏名、職業記載の台帳作成など取締。
7	文部省所管以外の学校に陸軍現役将校を配属することについて定める。 全国中等学校以上に陸軍現役将校を配属。 第三回明治神宮体育大会。 第一回学生拳闘選手権。 全国高専ラグビー第一回大会開催。 陸軍現役将校学校配属令公布。 ラジオ放送始まる。 大日本相撲協会創立。



健康劇 寄宿生出演

中央の健康國の女王は右手のよき食物と運動を宣傳して居る健康
体を歓迎して最後に左手の病氣や非衛生的なものを追ひ拂ふ。

『めぐみ』第5号

神戸女学院			
年号	院長・学長・担当者	月 日	事 項
大正15 (1926)	音学部長 藤田とき T. 12.9.～	4 13	学校法人神戸女学院設立認可。
		4 26	音楽部専門学校令により認可。
		5 13	院内記事 満鮮旅行帰院す。(第7号. P. 4.)
			院内記事 女学部身体検査を行う。(第7号. P. 4.)
			院内記事 午前六時四十七分三宮駅発特別列車にて全校生徒大津方面へ遠足を催す。午後六十三分帰神。(第7号. P. 4.)
		5 19	古山ゆき子より葆光館先生宛(略)朝の体操で授業は四十五分つづいて四校時して十二時から食堂です。食事に当たった組は其の日は朝二時間だけで授業は終わって仕度をし又後始末も全部します。(略) 午後は一時から一時半まで実務、一時半から授業が二校時、次に十五分写生習字を各々でして掃除をすまして帰ります。(略) 高等科一年は今年から人文科英文科と美術科に分かれました。課目は哲学二時間、国語四時間、裁縫二時間(和洋随意)音楽一時間、体操二時間、英語六時間、でございますその中二時間は歴史でとてもむつかしくて皆困っております。(第7号. P. 24.)
		5 21	院内記事 創立記念日に付き午前七時春日野墓地へ参拝。九時三十分より講堂にて記念礼拝挙行。式後プレー練習あり。(第7号. P. 24.)
		10 2	院内記事 共励会遠足(大蔵谷)。(第7号. P. 1.)
		10 21	院内記事 遠足日(一般)女学部、高等部卒業級の旅行本日より三日間。(第7号. P. 1.)
		10 21	森先生の御遭難、遠足引率中亡くなられ同24日葬儀が行われる。
		11 3	院内記事 体育デー、小運動会。(第7号. P. 1.) 第6号。(春季号)。 葆光館だより 生徒の保健について、色々協議されて居りましたが、本学年から各級一週一時間づつ体操に時間が増し、放課後各学年の日割りを定めて、岩佐先生監督の下に、一時間づつ運動をさせることになりました。まだこれで充分とは申しませんが、従前よりは彼女等の顔色に紅味をまし運動に興味をもつ助けともなる事を願って居ります。尚、理科の方で今度鉾物のじかんを一時間設けました。(第6号. P. 18) 寄宿舎便り、創立以来火の気がなかった寮に火鉢が入ったことです。葆光館だより 紫水 葆光館に電話が入る。(第7号. 夏季号) 愛校週の事ども 大学部三年 水谷えつ 去年五十周年の記念の企ての一つとして始められた年一度の愛校週が本年五月十六日から二十二まで守られる(略)第七日ー二十日バザー、二年ぶりに今年はバザーがある(略)十一時からメーボールダンスが始まった。なつかしいメロデー心をそそる拍子の音に我慢しきれず店を留守にしてとびだしてゆく。(略)雨の為に午後のメーボールダンスは金曜日にする事になった。(第7号. P. 7.) 運動部長、家石 繁子、岡崎 君子、運動部は相変わらず元気で、朝の気持ち好い深呼吸、テニス、バレーボールの試合など盛んでございます。今年の大学部バレーボールの試合では大学部三年生が優勝し、更に女学部との試合では大学部が勝ちました。大学部なり学課の方は忙しくなりますが、夫れと共に運動を盛んにし、心身共に益々健康であることを御喜び下さいませ。(第7号. P. 14.)

メイクイン・メイボールダンス

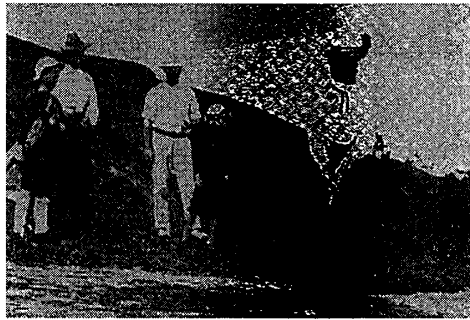
メイクイン・メイボールダンスは五月祭ともいわれ、ヨーロッパ諸国に古くから伝わるお祭りです。

メイボールダンスは、高さ3.5mのポールに取り付けられた紅白それぞれ12本ずつの布を交互に踊りながら編んでいくもの。(写真 P. 169)

福岡女学院では大正5年(1916)の創立記念日に始められた。奈良女子高等師範学校では大正12年頃(1923)に行われた記述がある。

社 会 一 般

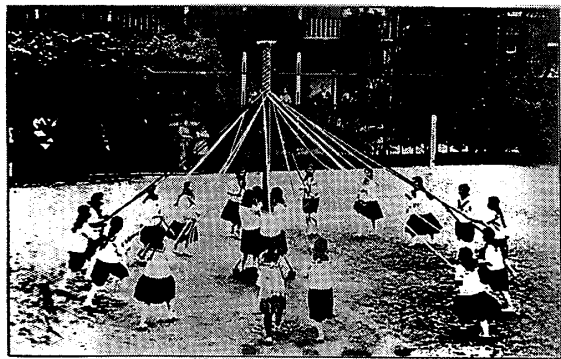
月 日	事 項
2 2	国際スキー連盟に日本の参加承認。
3 8	文部省、体育運動振興に関する訓令をだす。
4 1	日本女子スポーツ連盟創立。
5 27	高等女学校令施行規則改正、「体操・教練および遊戯」を「体操・教練・遊戯及競技」と改める。
5	学校体操教授要目改正。
8 26	最初の日本婦人対外国婦人のゴルフ競技、神戸六甲山上コースで開催。
8 27	～29. 第2回世界女子オリンピック大会開催（スウェーデン）人見絹枝単独出場して活躍。個人総合優勝。
10 27	～28. 全日本アマチュア拳闘大会開催
11 30	日本ラグビー蹴球協会設立。
12 25	大正天皇崩御。 日本女子体育専門学校設立認可。 文部省、体育運動振興に関する訓令をだす。 文部省、ソフトボールを小学校・中学校の教授要目に採用。 全日本学生スキー連盟設立。



(神戸ゴルフ倶楽部史より)



バザー・メイポールダンス (其の一)
神戸女学院



バザー・メイポールダンス (其の二)
神戸女学院

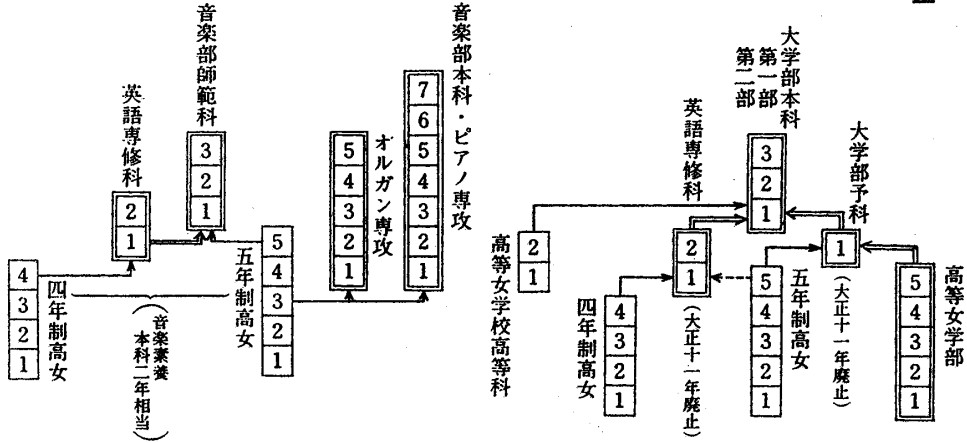
『めぐみ』第7号、夏季号より



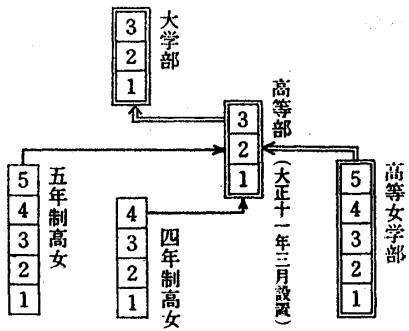
メイポールダンス (1923頃)
奈良女子師範学校

神戸女学院
学科組織略図

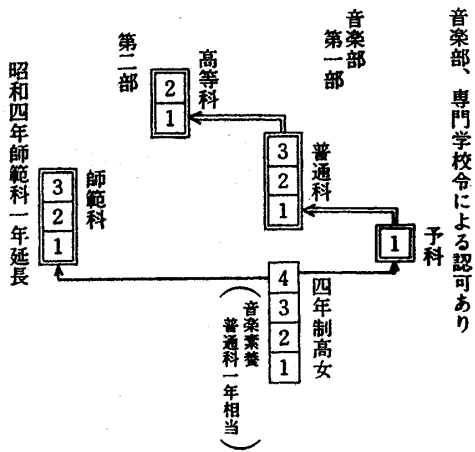
大正八年改正



大正十一年改正

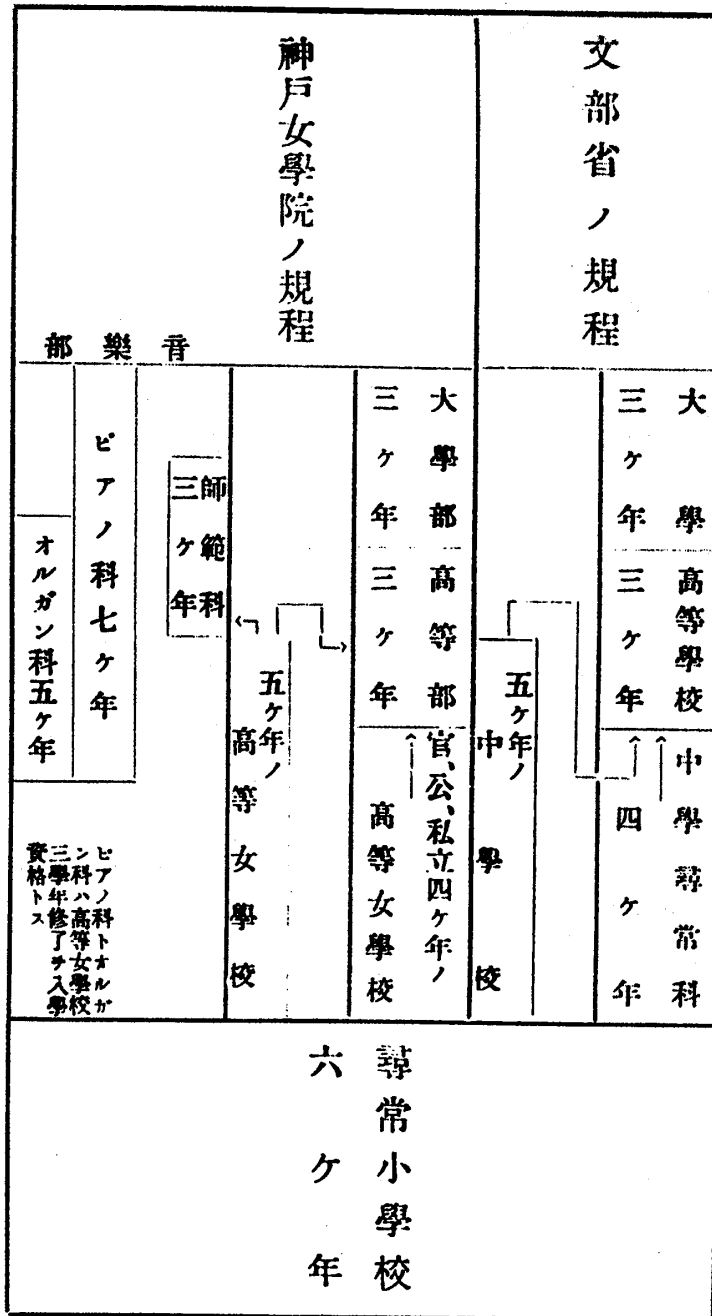


大正十五年三月



『神戸女学院100年史』総説より

神戸女学院
学科組織略図



『めぐみ』第49年報より

表 料 學 部 學 大

計	體操	選擇科	理科	心理	倫理教育	國語漢文	英 語 二 依				修身	學 科	
							加設科	第二部	歷史	英文學		聖書	部
二二	二	四		四				二	六	二	一	第一學年 第二學年 第三學年	第一 部
二二	二	四	四					二	六	二	一		
二二	二	四				四		二	六	二	一		
二五	二				二	二	八	二	六	二	一	第一學年 第二學年 第三學年	第二 部
二五	二				三	二	七	二	六	二	一		
二五	二				三	二	七	二	六	二	一		

大 正 八 年

表 科 學 科 修 專 語 英 及 科 豫

計	撰擇科	體操	論哲 理學	科學史	法制經濟	數 學	歷地 史理	漢國 文語	英 語	聖 書	修 身	科 目	
												部	年
二四	三	二		二		二	二	四	六	(英文)二	一	豫 科	第一學年
二五	三	二	三	三	二			四	五	(英文)二	一		第二學年
二六		二				三		四	一三	(和文)二	二	英 語 專 修 科	第一學年
二五		二		二		二	二	四	一〇	(和文)三	一		第二學年
二五		二	三	三	二			四	八	(英文)二	一		第三學年

『創立五十年神戸女学院史』より

表 科 學 部 學 大 (年一十正大)

科目	第一學部			第二學部		
	第一年	第二年	第三年	第一年	第二年	第三年
修身	一	一	一	一	一	一
聖書	二	二	二	二	二	二
英文學	六	六	六	六	六	六
第二部 加設科				八	七	七
歷史	二	二	二	二	二	二
國語漢文			四	二	二	二
倫理、德育、 國民道德				二	三	三
心理	四					
理科		四				
選擇科	四	四	四			
體操	二	二	二	二	二	二
合計	二二	二二	二二	二五	二五	二五

表 科 學 科 等 高

學科	第一學年			第二學年			第三學年						
	修身	聖書	英語	國語漢文	地理 歷史	數學	法制 經濟	科學 史	哲學 理學	唱 歌	體操	選擇 科	合計
第一學年	一	二	一五	四		三				二	二		二九
第二學年	一	二	* 一〇 又八六	四	三	二		二			二	三	又二六 二五
第三學年	一	二	* 又八五	四			二	三	三	三	二	三	二五

『創立五十年神戸女学院史』より

十一月二十日

秋期運動會を模光館前運動場に於て開く、森體操教師の熱心は全校生徒をして奪ひたしめ、四年振りの運動會のこと、ていかなる會の催さるゝならんと心ひそかに案ずるものもわりしも、見物人狭小なる運動場内に満ち満ち、海軍軍人の來賓席に二百人近くさへ見受けられしが優姿美觀を發揮したるダンス及び規律整然軍隊の勇練を恐ばしむる體操もありて、大に來目をよるこばせ、多くの會集者より讃詞を受けしは體育を輕視するが如き傾向あるやに言ひ傳へられたる女学院にとりてまことに祝すべきことなりき、當日のプログラム左の如し。

運動會プログラム

大正四年十一月二十日

開 會 (午前九時)		
一	唱歌 (君が代)	會 衆 一 同
二	呼吸運動	全 校 生
三	バスケットボール	普 選 手
四	旗行進	普 一 B
五	ラインレター	普 三 A
六	牧 穫	普 二 A
七	暉鈴體操	英 專 一、普 五、四
八	架橋競争	普 一 A
九	マチユウウォルツ	專 二、三、四
一〇	デットボール	普 二 A
十一	ハンガリアンダンス 及びボルカセリーズ	英 專 一、普 五
十二	スペイン競争	普 一 B
十三	木環運動	專 一、英 專 二
十四	フットボール	普 三
十五	體 操	普 二 三
十六	玉うばひ	普 一 A 四
十七	奉 祝	普 一 A
休 憩		
十八	提重競走	英 專 全
十九	スプリング	英 專 一、普 五
二十	女軍築城	普 三
二一	棍棒運動	專 二、三、四
二二	南極探検	普 二 二
二三	ムーンライト 及び輕麗運動	普 四
二四	バスケットボール	專 普 選 手
二五	ライゲン、タンツ	普 三 三
二六	玉竿運動	普 五 五
二七	桃 太 郎	普 一、二 有 志
二八	障礙物競走	普 三 三
二九	秋の景色	普 二 二
三〇	花の使ひ	普 四、五 有 志
三一	徒歩競走	普 一、二、三、選 手
三二	ロース、ダンス	專 一、英 專 二
三三	箍圈運動	普 二 二
三四	來賓、職員競走	來 賓、職 員
三五	オートナム、リトヴス	專 二、三、四
三六	日米親交	全 校 生
三七	院 歌	全 校 生
閉 會 (午後四時)		

神戸女学院運動会

大正四年十一月二十日學院の秋季運動會舉行されたり當日のしの、めのころ起き出で見れば何となく雲多く朝の光の勢よくさし出でねば今日の天氣如何かと心に懸け居りしも嬉しや八時ころともなれば瑠璃色の空裡く澄み渡り希に浮く雲もいと輕やかに今日の嬉しき日を壽ぐかの如く見えたり、定時刻前に袴の裾括り上げ運動靴を穿き揃へし輕快なる装ひにて理科學館前のテニスコートに集りたる全校生は葆光館の運動場へと列正しく進みたり。山の苺も木々の紅葉も今日は一入色染えて見えけり、午前九時に達するや嚴肅なる君が代と四百六十二番の唱詠とを以つて會は開かれぬ、呼吸運動の後一先づ全生徒勇退せり。次には普通部一年生B組の旗進行は各々日米の國旗を可愛らしき手に持ち細き足の輕やかなる運びにて二年Bの牧獲競争は甲斐々々しく四年五年英專一のワンス亜鈴はよく揃ひたり、白き運動服姿の専門部二三四のマチウオオルツ英專一及び普通部五年のハンガリアンダンス及びボルカセリーはいづれも快美にして普通部一年生の架構競争は巧に縄をとび普通科二年のテットボール四年生の紅白の玉うばい長き下駄を穿きたる一年Bのスプーン競争皆機敏になされたり、専門部一年の木環運動普通部二年の體操は共にダンスとは異なる一種の特徴を發揮して勇敢敏活なりき、普通部三年生のラインレンダー一年Aの菊の花環持ちし奉祝など皆美しくおもしろかりきかくて休憩時となりし頃は時のたつに従ひて多くなりし、父兄來賓御招きせる海軍々人方は場に充ち學院青年會の主催なる賣店も大いに賑ひ甲斐々々しく立ち働く生徒は食事の暇も無き程なりき。

父兄來賓席は立錫の余地なき迄になりし午後合図の鈴と共に樂隊の音勇ましく出でたるは普通部二年生して手に手に日米の旗を持ちて南極探検を始め、中央に立てたる南極と記せる大いなる旗を勝ち得たるはアメリカ方の組にして此組の勝となりたり、次には専門部の棍棒體操にして同じ服装にしてよく揃ひて美はし、それより得意のバスケットボールにて普通部四年五年のチャンピオンと之が應援生は樂隊に足を合はせて出場し、貝姉の合図のもとに始められたり、斯くて勝負は普通部四年の四點五年の十點にして五年の大勝なりき、第四は球竿體操にしてよく揃ひて美しく無邪氣なる一年生の桃太郎と云ふ遊戯は可愛らしかりき、其次は前に普通部四年生に勝利を得たる五年生の選手と専門部の選手との試合にて普通部五年の十一點對専門部の十點にしてタイムとなり五年の勝利にてアフォレスト先生より得たる名譽の優勝旗を掲げて勇退と記るされたる門より勇ましく退場せり勝利の選手の戴きし菊もて飾られたる蔓の冠は専門部生の或る者の心づくしなりしとか普通部四五年の有志者九名にて成されたる「花の使」と云ふ遊戯は真白き袈長の服に丈なす黒髪を下げ手に手に黄菊白菊を持ちて専門部有志者の「心床しや秋の花」を歌ひ出づるに合せて靜かに舞ふ様は宛ら天使にして秋の夕日に照り榮えて風無きに散るわくら葉の調べも聞こゆるが如く思はれたり、専門部一年生のローズダンスは手に手に十輪の淡色のローズを持ち花に憧憬が舞ふ様は如何にも天下に此花の友あるのみと云ふが如き心表はれ美しく立て其香をかく様など絵にも描きたき心地せり、専門部二三四年のオートム、リースは誠に美しく聞くだに躍り出したき樂隊の調べに合せて或は靜かに或は早く運動心の儘にていと美はしかりき、斯くて最後に全校生一同日米の旗を持ち運動場に交叉せる日米國旗を表はし旗體操をなし後整列し 両陛下萬歳を三唱し女學院萬歳森先生萬歳をも連呼して當日の運動會は楽しく終わりぬ。

運動部報告

専門部三年 平 石 貞

前の自治會の時運動部長がテニスマッチのため非常に骨を折って居らるゝのを見て少なからず同情を表して居つたものゝ、なぜあの様に骨を折らるゝのか自分にはとんと解せなんだ、なぜなら自治會の一員である諸姉は運動部長指圖を受けずとも自ら進んで部長を助くる大の覺悟があることと信じて居たからである。

新しい學年が來て及ばずながら諸姉の御助を得て運動部の隆盛を謀り四十年の大祝賀會にはすばらしい運動會をして日本全國の人の稱讚を得るはむづかしいにしても少なくとも神戸の人達のあいた口をふさがらぬ様にして見度ものと小さな野心を持つて運動部を引き受けて見た。

四月は思ふ様な活動をする暇もなく済んで五月が來たテニスをする人達も一人殖へ二人増して段々その頭數も多くなつてきた、ボールの催促を受くるのも毎日の様になつて來たので一人で喜んで居た。

五月二十二日の創立記念日に小さいながらもテニスマッチとバスケットボールの競争をして四十年祝賀會の準備をし度ものと思つた、催促に催促をして辛じて十二人の人を得た、その十二人の人達も自分達はクラスを代表して來たもの自分のベストを盡くして己が責任を全うし度い否全うする筈であると言う自覺を持つて居られたか如何、その日テニスマッチを運動場に見物して居られた諸姉にその御判断を仰ぎ度のである、あく迄も云ふ運動部の隆盛は部長一人の責任でない、諸姉は自治會の一員である、一員である以上は各會員として責任を果たして欲しいものであると。

六月が來て愈々十二日に梅花女學校で梅花、同志社の生徒諸姉と華々しいテニスの合戦をなす様になつた諸先生と親の外にはめつたに下げた事のない頭を下げて何卒テニスに行つて下さいと頼みに頼んで得た人達はやつと十人、二百五十有餘人を算する我が神戸女學院で他校とテニスの試合をするからと頼みに頼み、願ひに願ふてやつと十人とはなさない事ではないか、この日雨降つて試合の秋に延びたのはこれ天帝の御同情か。

「汝等は神の宮殿にして神の御靈汝等のうちに居ますことを知らざるか」不十分なる運動をして不健康なる身体を有し而して時を惜しんで勉強をする必要は何處にあるか、祝はんとする秋は來る、合同運動も未だその終極の目的を達して居らぬ、是れ我が不注意我が不熱心の至す所と諸姉の前に深く御許しを乞ふと同時に諸姉の御熱心と御同情とをまつて初めてその目的を達し度と希望するのである。

Play the game! We are not here to whine and complain, to stay down because we are knocked down, to blame the inequalities of the ground or the unfairness of the umpire. Where there are no difficulties there can be no victories. Forward.

(第60号. P. 19.)

遠足の記事

全校生徒一同武庫郡六甲山麓二樂莊に遠足會を催す、此日少し空曇り居りしが途中より雨降り出でもさほどにあらず、二樂莊に達したる頃には一時降りしきりしも、一同本館内にて休憩、滿洲地方の發掘物等種々のものを見學し、其中に空も晴れて、山に遊ぶもの、庭園に遊ぶものとりどりに前面歩茅渚の海上には五十艘近き帝國軍艦勇姿を水面に列し國家の堅城見るさへ心勇ましく、歌ふもの、走るもの、かくて午後三時半山を下り午後五時一同無事歸院したり、歸途に及び降雨甚だしくなり、一同雨具の用意なく、洋傘にてようよう凌ぎ、濡れにぬれしも、皆かいかいしく雨を犯して歩行し、却つて當日の印象を深うし、快を盡して、降雨の不平をもらすものなく清遊をむさぼりぬ。

大正4年11月4日（第61号、P. 17.）

姫路への遠足（十月十六日）

何だか空が怪しい雨にならなければよいがと願つて居たのに無情な雨は前の夜からとうとう降り出した。朝になつても中々止みそうもない。併し折角皆が遠足の用意をして居るのだから今更中止するのも残念で堪らない。我々とても大和女子だ兩位に負けてなるものかといろいろ委員の先生方におねだりして雨天ではあるが遂に姫路に行く事になつた、そして兵電停留所に集まつた者から順番に電車に乗つてそれでも豫定より一時間餘りをくれて九時過ぎには全部の者が乗り込んだ。

雨はやつぱり止みさうもない、明石で兵電を捨てて明姫電車に乗り換へえる、姫路についたのは十時半過ぎ、なほも降り續ける空をうらめしくながめながらお城に向ふ。静かに糸の様に草の上に降る雨、お濠の彼方に雨の中にぼんやり浮かんだお城、美しい繪の様な景色だ、お城の下の休憩所に荷物を置いてお城の見物に行く、美しい苔の生へた石垣、高い松、その間の坂道を登つていくと、家來を従へながら登城する大小さした武士達或は甲冑に身をかため勇み立つた勇士達がこの同じ坂道を往來したであろうその昔が偲ばれる。静かに降る雨の音、その中を歩く我々の足音は淋しく我等の心にひびく、天守閣から眺めた雨に煙る姫路の町とその郊外の景色、私はあまりの美しさにいつまでも我を忘れて立つて居た、休憩所でお辨當を食べる。後兵營の方に行く、上官の通る毎に立上つて挙手の禮をする人形の様に動く兵隊さんが我々の目に珍らしくうつる。一人の將校の方が丁寧に色々と兵營内の生活を説明し又そこいらを案内して下さつた。恐ろしい機關銃の射撃や又は可愛い傳書鳩を見せていただく。この時分から雨はやうやく止んだ。後われわれは親切な兵隊さん達にあつくお禮を云ひながら兵營を後に電車停留所に急いだ。（略）

大正13年（臨時号、新聞形式）

体育記念日の記

十一月三日先帝の御誕生の日を以て日本全國舉つてこの日を体育記念日として守つた、
 普院に於てもその日のみならずその一週間は体育について考へて過したのであつた、

『即ちルカ傳二章五節 イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人に愛せられ給ふ』といふ聖句を考へつゝ、神より興へられた身体を益々大切に發達せしめるやうに努めました、

その日は豫ねてより準備されてあつた姿勢に關したポスターが門に、柱に、木の枝にかゝげられ、その前に立つ人々をして我知らず姿勢を直さしめたのであつた、

も一つ面白い試みがあつた、即ち姿勢良き人に對して『あなたの姿勢は大へんよろしい』と書いたカードをさし上げ、姿勢悪しき方々にはそれぞれ悪しき部分について書いたカードをさし上げた、此の如くにして人々をして姿勢に殊に注意せしめたのであつた、

午後からは自治會の主催の下に記念集會が開かれた、

そして懸賞ポスターの發表、詩の發表、又は小さい方々の對話などあつてどれも皆体育を獎勵するにふさはしいものであつた。

その日のプログラムは次の如し

- 一、姿勢に關する話、
- 一、健康軍の發表、
- 一、懸賞英詩翻譯結果發表、
- 一、懸賞ポスター發表、
- 一、体育に關する三分間演説、
- 一、賞品授與
- 一、對話、(間食を誡む)
- 一、對話、(眞の健康とは何なるか)

運動會の記事 (十一月十二日)

遠足に雨に祟られた我々は運動會こそお天氣の様に祈つた効があつて朝から氣持ちのよい秋日和である、短い禮拜の後運動會は九時からいよいよ始められた。

院内學生全部の体操、大學部生のムーンライト、女學部一年のバウンドボールとプログラムは次第に進む、高女部四年の遊戯水兵は大變可愛らしい、大學部一年のバック、レースはそのをかきな格好が皆を散々笑はせる、五年生のミニユエツトもよい。音樂部の音樂マーチは又目先が変わつて居て面白い。高等部二年のオリンピック体操はオリンピック競技の体操化されたものでボート、レースや水泳は皆に大受だつた、いつでも人氣のある職員リレー、學年リレー、を終り、四〇のプログラムを無事にすませたのは三時過ぎだつた。

運動會プログラム

大正十三年十一月十二日
午前九時開始

順次	種目	年級
一	体操	全
二	ムーンライト	高
三	バウンドボール	女大
四	オランダダンス	女一
五	鉢巻取り	高二
六	繪畫競争	B C
(判読不明)		
八	水兵	女
九	センターボール	高二
一〇	棍棒	A 四
一一	セブンジャンプス	女一
一二	オートナムリゾス	高女
一三	跳躍	女一
一四	バツグレース	女一
一五	バスケットボール (前半)	全
一六	行進	女一
一七	バスケットボール (後半)	全
一八	蝶	女二
一九	メヂシンボール	女二
二〇	雁	B C
二一	ミニユエツト	高
二二	綱引	全
二三	旗立バスケットボール	女一
二四	ジャンピングワング	高女
二五	音樂マーチ	普高
二六	平均	女四
二七	スイート	A
二八	フレンチリール	高女
二九	白兵戦	女二
三〇	靜體的	女三
三一	フイツシューリール	女一
三二	馬上ノ騎士	女一
三三	アッドボール	女二
三四	競争遊戯	女二
三五	障害物リレー	女二
三六	ポーランドダンス	女三
三七	大轉球	女一
三八	オリンピック体操	高女
三九	職員リレー	一
四〇	學年リレー	一

集合 院歌合唱
閉會ノ辞 萬歳三唱

解散

神戸女學院

神戸女學院第49年報。(関東大震災の年に於ける神戸女学院)

過ぎにし大正十二年度を顧みるとき、例年よりも私どもの期待を驚した事故が多うございました事を思はされます。然し一年間を想ひみて。其間に費されました時や努力や實行の出來た事々やを大体次のやうな題目のもとに御照會いたす事が出来やうかと存じます。

神戸女學院々長 シャロット・ビ・デフォレスト述。

過去一ヶ年間に於ける常般的行事

- A. 校務管理について
- B. 教務について
- C. 社會的事業について
- D. 宗教的努力について

B 教務について ミシガンのバトルクリークにあるケログ体育學校を優秀な御成績で御卒業せられ、其後ウエルスレー大學の体育衛生部に一學期間學ばれた武本文代氏が三月末に御歸朝になり只今は學院に教鞭をとつて居られます。(P. 6.)

C 社會的事業について 他校とのテニスの試合は大概の場合は他の宗教學校との間にのみ行はれて居ます。理由は即ち官立學校間の試合は稀に祭日に行はれるので普通は日曜日に舉行されますから。神戸女學院は勿論日曜日にも他の日と同じく健康保存に必要な運動は爲すべきと信じ、一般の運動は許しますが、組織的競技は時と勢力とを多く必要とするところから若し日曜日には参加せしむるなら基督信者として日曜日に守るべき精神を忘れしむるに到るといふ考をもつて居ります。この主義のゆえに昨年大阪に開かれた東洋女子オリンピックに又他の比較的小さな運動競技に参加する事が出來ないやうになりました。但し衛生教育に關しては決して怠つては居りません。体操教師等の研究の結果を定められたる十六個條の保健宣傳票が上級生等の為につくられ相當の成績を實行の上にあげられました。かかる宣傳票を用いる事を奨励すると同窓生にも一枚づつ發送せられました。矯正体育の組が組織せられ十八名が其中居りまして誠に良い結果をあげて居ります。過去一ヶ年間には思いの外傳染病や重病者が少なくあった事をよろこびます。一月以來はミス、セラ、フィールドの指揮の下に學生の營養増進の目的で温かい飲料を備へるやうにいたして居ります。以上の外種々の保健法が試みられやうとして居ります。(P. 9.)

教育事項

體育方面も大いに進歩しました。大學部一年の必須科である衛生の組は衛生を一般に普及し他の人々を導く方法を研究して居るのであって、體育宣傳の一方法とまでなつて居ます。體育奨励の爲全國體育デーとして文部省の定めた十一月三日には出来るだけ姿勢を善くする日として守りました。又當日寄宿舎生が奨励のため健康が病を追い出すと云ふ事を人物化して演じました。對抗バレーボール競技では學院チームは勝利を得ませんがテニス選手は近隣の女學校と肩を並べるだけの力があります。テニスが盛んになるにつれ現在六百五十名に使用されて居る二つのコートが幾倍かに増され新敷地に於いても大學部のために作られる日の來ることを望んで居るのであります。矯正體操教授を受けて居る四つの小さい組がありますがよい結果であります。五週間を一期として一回は學期中に一回は休暇中に都合二回各自の健康の記録を作る様になりましてから皆が衛生に注意を向ける様になつて來ました。此の一年間に死亡者を四人出した事は悲しい事でありましたが學校に原因を見出し得ません。ミス、セラ、フィールド及びミス武本が各々家政學教授以外に又體操、ダンスの教授以外に健康に對する知識と注意とを養ひ一般にひろめるため努力して居られる事は必ずや獎來に於いて善き實を結ぶものと確信して居ります。

(第5号. 五十年報. P. 9.)

五十年祝會、教育講演會人文の将来(河村幹雄氏) (略)、第三に女子教育が輕んぜられて居る。子供は既に人である。子供よりも先にその母を教育せねばならぬ。然るに今日の女子教育の理想が間違つて居る。それは女子を職業人とすることである。職業人は男子である。彼らは仕事の上から肉体のみでなく精神までかたよった人間になり勝である。反之婦人は各方面に亘つて円満に教育され完全な美しい人文を次の時代に伝える責任がある。即ち婦人は生まれながらにして教育者たる大任がある。たつた一人の子供でもよい、その子供をより高い人格者にし、その子供の爲に世の中が少しでもよくなるとすればそれで母の大任は、はたされるのである。カーライルは世界の歴史は婦人の歴史だといつたが私は世界の歴史は婦人が作ると言いたい。キリストは、十一人の弟子を教育せられたに過ぎない。この世が悪化する原因は母の心が無くなりつつある事である。母の滅するときは人文の滅する時である。世を救うものは母のみである。

創立五十年紀念展覽會につき (略) 衛生に関するものとして衣服と頭髮の形に關しての出品を欲せり蓋し共に現在の大なる問題なればなり。殊に衣服に關してはすでに婦人服の改良問題として識者間には、盛んに論ぜられ或は直接改良に或は勧誘運動に興れる向もあればその改良進歩の程度及び流行の趨勢等は大いに考慮を要するものあり、故にここに學生の年齢及時季に適する服装其他下着運動服等につき展覽の材料を集めんとせしも成功には至らずされど幸いに若干を得て一般の展覽に供する事を得たり。尚頭髮の形に關しては何等の出品をも見ざりしは遺憾なりき。(略)

(臨時号. P. 28.)

第 一 健 康 軍 (Health Crusade)

岡山のオールズ氏は、亞米利加にて体育の爲め用ひらるゝ、健康状態の記録用箋を日本の用に辨せんが爲め翻譯せられたり。此の用箋を利用し我學院にては、高等女學部の下級生十二才より十五六才に至る生徒をして、夏季に、睡眠、運動、清潔等凡そ十ヶ目に付き、表を造らしめたり。多数は、休暇氣分に製れたると見え、十分なる記録をなさずして健康軍の要求を充たし得ざりしも此計畫は健康に關する良き習慣を形づくるべき刺戟と援助となりしを認め、二月再び、此計畫を繰り返す事したり。

健康教育の一事項として擧ぐべきは日本の經驗ある女醫井上友子女史を、東京より招聘し、体育に關する要點の講演を請ひたる事是なり。十一月三日間に亘り、氏は午前午後に講演せられ、或時は全校生に或時は一部分に、一般衛生を説き上級生には、性に關する衛生を説かれたり。此の事は健康軍の主張せる問題に科學的及び實際的方面の研究を興へたるものと認め。

健康軍の企望を助くる他の一つは、寄宿舎の食費の増額なり。簡單に其の次第を述べんに學院内の店にて畫食の備として、販賣を許されたる菓子類が間食の用に供せられ其結果は食事時刻の食慾を減殺し衛生上に宜からず間食を好むは畢竟食物養分の不足に起因するならんを考へたれば、之を改良せん爲め寄宿生の食料一ヶ月金拾貳圓五拾錢を拾五圓に増加し、院内買店にて、菓子類の販賣に制限を加へ毎食事の滋養物供給に不足なからしむる事に意を用ひたり。尤從來校醫の執行せる毎年の春季體格検査に於ては、大體に於て通學生より寄宿舎生の健康優劣なる状態を示せり。之に對する校醫の説は、通學生の辨當の少量なる事其原因の一なりと。故に辨當の量の増加を奨励せり。

日本の食事に必要とする温き茶の供給は、從來興へ居るも校醫の報告を聞きて次きの希望を起せり即ち近き將來に於てホット、ランチカウンタが出來せすばせめてスプンケチン又は冷へたる御飯、辨當を温むる装置を設けて健康増進に裨益あらしめんことを考案しつゝあり。

精神検査並に體格検査は視力の微弱なる事を示せり。依て此等の者に眼鏡を用ゆることを奨励して之を用ゆることを忌避する風習を折破するに勉めたり。近來日本の女子が健康の爲めにも學問の爲めにも眼鏡の助けを利用せんとする傾向著しく進歩し、眼の養生に一般教育者も意を用ゆる爲め、學生間に傳染性の眼疾は著しく減少せる様に思はる。

寄宿舎に在て病氣に罹る者は近來大に減少せり。是一年半以前、校外に於て相當の建物を借り入れ校外寄宿舎を設けたる爲め一室内に多数起居する事を避け得るに至りたるが爲めにも因るならん。唯非常なる一つの出來事は二月に猩紅熱患者の發生せしこと是なり。三人の患者を生じたるが醫師の指圖通り遊病院に入院せしめたるに順當なる経過にて本復し、寄宿舎は早速に嚴重なる消毒を施して病菌を滅絶せしめ、蔓延を防ぎ得たるを幸とす

痛ましきは生徒中二人の死亡者のありたる事なり。其一人は父の病氣看護の爲め故郷に歸り居たる者にて父は遂に『チフス』にて死去し、其看護中に病菌傳染し、三週間の後遂に其家庭にて死去せる者。他の一人は牧師の娘にて歸宅保養中なりしが、肺病にて遂に死去せり。

大學部と高等女學部とは、一組つゞの小團あり。是は身體弱き爲め一般の生徒と共に體操を爲さしむるを得ざるが故に大學部の體操教師指導の下に醫療體操を行はしめたるに満足なる結果を來たし。醫療體操を卒へて原級に復し一般生徒と體操を共にし得るに至りたる者數名あり。

生徒一般の運動として春は『登山』秋は『遠足』を行ふこと從來の通りなり『土曜日の徒歩クラブ』なるもの學生有志者に依りて組織せられしも他の活動と暑氣の爲めに中止されたり。新聞社の主催に係る『ラニス』『バレーボール』の對校試合は繼續す。斯種の競技運動會は祭日、休日、に催さるゝを常とす。我學院は學業の妨げとならず又日曜の休日にあらざる限り出場参加の方針を取る日曜日の催には参加せざる爲め、試合に不参加の已むを得ざることを屢々あり。

日曜日の休日を守る方法及び程度に就ては教會學校、即クリスト教團の間に統一を缺く故に之に就ては現に問題として研究せられたり。

『めぐみ』第 48 年報より

法 一 一

表 照 對 數 概 及 位 單

單位表		名 稱		略 字		命 位	
米	米	米	米	米	米	米	米
...

單位の讀み方		統 系		概 數 對 照		換 算 數		差	
...

統 系		概 數 對 照		換 算 數		差	
...

統 系		概 數 對 照		換 算 數		差	
...

統 系		概 數 對 照		換 算 數		差	
...

白米換算

...
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

神戸市役所

○本表ハ日常用ユル換算メートル法ノ簡便ナ數ニ換算對照シタモノデアリマス

○普通貨物ノ際メートル法ヲ使用スル場合換算ノミニ據ルトキハ計量其他ノ類雜ヲ從ニマスカラ本表ニ示セル概數ヲ使ヘバオ互ニ便利デス

例ハバ

醬油ヲ買フ場合五升トカ一升トカノ單位ヲ用フルガ之ヲメートル法ニ換算スレバ九〇〇二リツトル又ハ一・八〇リツトルトナリ非常ニ煩雜ナルガ本表ニ對照セル十リツトル又ハ一リツトルヲ使用スレバ簡便デス

○本表中添テアルハ概數對照欄ノ二數ニ差ヲ表ハシタモノデ其ノ内ハ印アルモノハメートル法ノ數據ガ小ナルコトヲ示シタモノデアリマス

(行 印 所 刷 印 所 後 書 印 刷)

追悼欄

森先生の御遺難

十月二十一日、大學部高等部（三年生は卒業旅行の為参加せず）音楽部の生徒百五十名は秋半ばの箕面に一日の楽しみを得ようと出かけましたけれど、眞實とも思はれぬ悲劇に終わったのでした。森先生は数名の先生及び生徒と滝の上の方に登られましたが、途中で半ば引き返し、半ばは進むことになりました時、先生は暫く考えられた後、直ぐ先の一行に加らうと急がれましたが、あやまって崖から落ちられたのです。誰もお側に居りませんでしたから、どうなされたのかまるでわかりませんがそれは午前十一時頃でしたとせう、御負傷なさいましたお體は箕面駅近くの陶守医院で十分のお手当てをお受けになったのでした。私達はどんなにその夜先生のためにお祈りをしたかしれません。しかしその翌朝八時十分先生は神の御國にお帰りになりました。忘れようとしても忘れられない大きな出来事とはいへ、最も惨憺たる事實は忘れたくてたまらないものです。過去の最も美しいものだけを心の殿堂に飾って礼拝していたいということは、誰しもの望むところのございましょう。森先生の不慮の御災難のその時の状況は思い出したくはございません。只後に残された大きな教訓の高い香のみを吸うて、より美しく生きたいと切に望むのみで御座います。（吉岡益子）

故森巫子教授葬儀が大正十五年十月二十四日午後二時三十分 神戸女學院講堂において執り行われた。

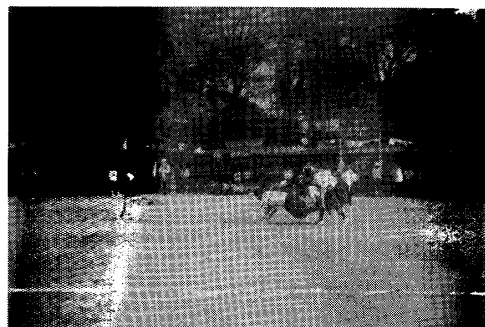
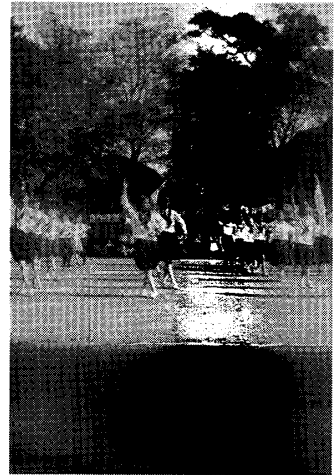
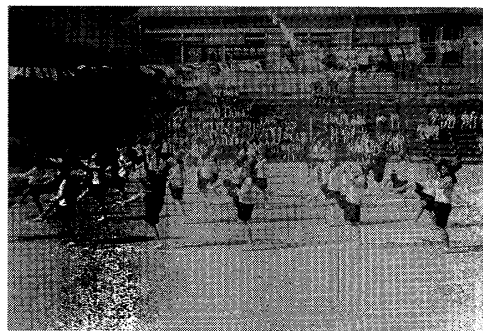
森巫氏履歴

明治十八年一月二十日大阪市北区堂島裏通二丁目に御誕生。小學校より女學校を卒業後東京體操音楽學校を卒業、體育に従事される。明治三十八年四月奈良県立桜井高等女學校に奉職。翌年桜井において聖公舎マレール氏により洗礼を受ける。

大正三年四月神戸女學院に奉職。幼き舞踊振りが實に巧妙で、可愛らしい舞踊家として當時の方々は驚かれたということ。神戸女學院の體育が常に他に一步を先んじ範を示していたことはその道の人々が静かにお考え下さらば賢明なるものがあると信じます。森先生は祈りの人であったと中島さく師が履歴を朗読された。（めぐみ9号、昭和2年2月、追悼号）

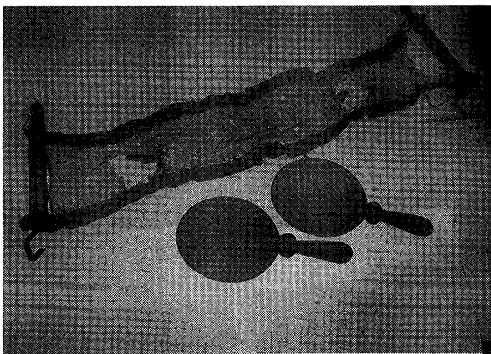


1920年代当時の服装



運動会

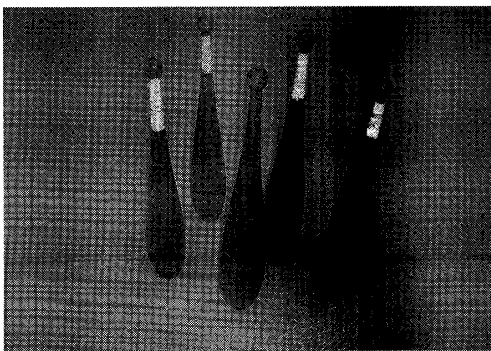
(社)神戸女学院教育文化振興めぐみ会所蔵



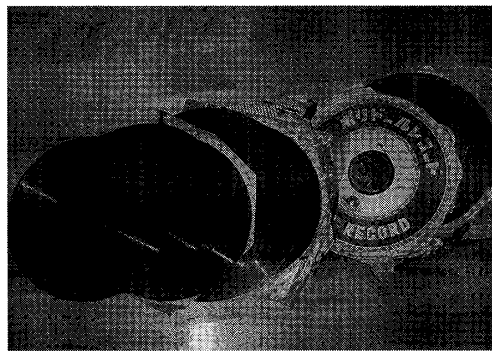
手製の卓球ネットとラケット



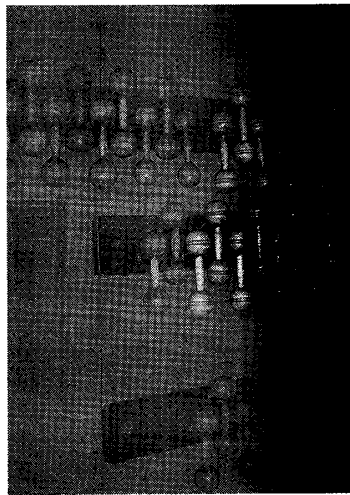
和製バドミントンのラケット (左)



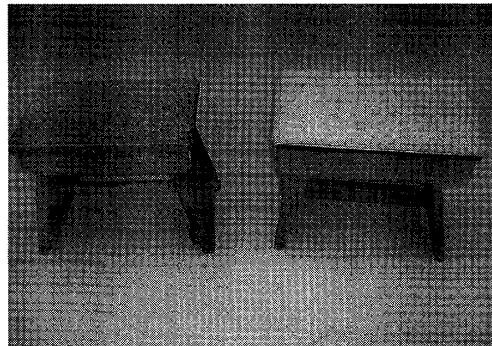
手具体操で使用した木製の棍棒



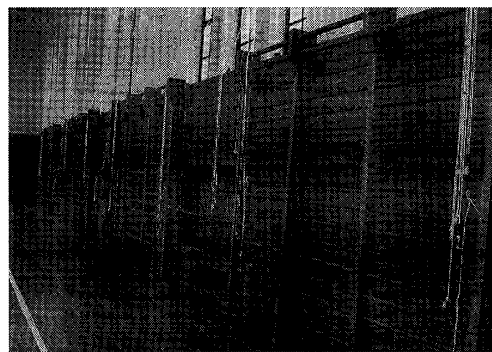
行進遊戯やダンス部で使用した SP レコード



大学体育館で収納された木製の亜鈴



スウェーデン体操で使用した椅子



肋木

体育備品として現存する歴史的な道具

引用文献

創立五十年神戸女学院史

神戸女学院八十年史

神戸女学院百年史 総説・各論

神戸女学院同窓会誌「めぐみ」

学院史料（神戸女学院史料室）

神戸女学院 その歴史を描く 明治八年～昭和二十五年

スポーツと教育の歴史 不味堂出版 昭和63年発行

体育の世界史 ベースボールマガジン社 昭和39年発行

新版近代体育スポーツ年表 大修館 平成6年発行

新修体育大辞典 不味堂出版 昭和61年 第4版

埼玉県体育年表

奈良女子大学八十年史

体操・薙刀からスポーツへ 一戦前の女子教育機関における身体教育― 道和書院 2003年発行

目で見る「神戸の100年」 郷土出版 2001年発行

目で見る「西宮の100年」 郷土出版 2000年発行

1) <http://www.gemedical.co.jp/company/hi/38/interview1.html>

(原稿受理 2004年12月6日)